

序 文

高崎市は、広大な関東平野の北端に位置し、群馬県を代表する中核市であります。平成の大合併により、市の人口は37万人を超え、群馬県内では最大の人口を擁する都市となりました。古来より上信越を結ぶ交通の拠点として栄え、中山道と三国街道の分岐点、上越新幹線と北陸新幹線の分岐点ともなるなど、全国有数の交通拠点都市でもあります。また、江戸時代には、高崎藩の城下町、宿場町として大いに賑わい、現在でも県内有数の商業都市として栄えています。

今回発掘調査を実施しました山名地区は、観音山丘陵が背後に連なり、西方には鑛川が織り成した「甘楽の谷」を望む、まさに古代万葉の景観を保つ地域であります。付近には国特別史跡「山上碑及び古墳」をはじめ、市指定史跡山名古墳群など多くの史跡を有する地域として知られています。発掘調査では、古代から中世の遺跡を確認することができ、本地域が、古より先進文化の素地を築いてきた様子が明らかとなりました。今回の発掘調査により得られた資料を後世へと伝え、古代史解明と郷土理解への一助となれば幸いです。

最後になりましたが、遺跡の発掘調査ならびに報告書作成に多大なるご協力をいただきました地元関係者の皆様、関係各機関の方々に、心より感謝申し上げます。

平成29年3月

高崎市教育委員会
教育長 飯野眞幸

例言

1. 本書は高崎市消防局南分署建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 発掘調査および整理は、高崎市教育委員会文化財保護課が行った。
3. 発掘調査の事項は以下のとおりである。

遺跡番号	高崎市遺跡番号 653
地番	高崎市山名町 273 番地 3
調査体制	教育長 飯野眞幸 教育部長 上原正男 文化財保護課長 若狭 徹 埋蔵文化財担当係長 角田真也 埋蔵文化財庶務担当 針井 修 (主査) 加藤志津代 (主査) 埋蔵文化財調査担当 小根澤雪絵 (主任学芸員) 田村 孝 (囑託職員)
調査期間	平成 27 年 11 月 16 日から平成 28 年 2 月 2 日
調査面積	326 m ²
整理担当者	小根澤雪絵 島田孝紀 飯塚光生
整理期間	平成 28 年 6 月 1 日から平成 29 年 1 月 31 日
4. 本書の執筆、編集は小根澤が行った。第 4 章第 5 節は、島田孝紀 (文化財保護課囑託員) が執筆を担当した。
5. 本書で使用した遺構写真は小根澤、田村が撮影した。遺物写真は飯塚光生 (文化財保護課囑託員) が撮影した。
6. 遺構測量の基準杭設定は榊横田調査設計に、遺構平面測量図は勝淵研に委託して行った。
7. 発掘調査の資料及び出土品は高崎市教育委員会にて保管している。
8. 発掘調査および本書の作成にあたって下記の機関ならびに個人より多大なるご協力を頂いた。
高崎市消防局総務課 山名町南町内会区長 相場正雄 神谷佳明 (群馬県埋文調査事業団)
9. 発掘調査および整理作業に従事した者は次のとおりである (順不同・敬称略)。

発掘調査	赤見公一 秋山文男 新井かつよ 新井任雄 荒井滋道 片原正美 小嶋明子 鈴木 実 善如寺陽子 塚越 昇 都丸夏雄 松倉秀樹 宮寺正明 四ツ柳亘
整理作業	倉持洋子 新井智也子 田村貴久江 佐藤久子 原 祐子 原 誠二 白石政子

凡例

1. 本書で使用した地図は、国土地理院発行の 1/25,000 (電子データ)、高崎市都市計画図 1/2,500 を使用した。
2. 遺構平面図の北方向は座標北を示し、座標は平面直角座標 IX 系 (世界測地系 2011) である。
3. 挿入図中で用いる遺構の略称は以下の通りである。
SD : 溝跡 SK : 土坑 SI : 竪穴住居跡 SX : 性格不明遺構 P : 柱穴
4. 遺構名は現場で付された名称を継承している。そのため SI 4・5 については欠番が生じたままとなっている。
5. 掲載遺物実測図は 1/3 を基本としているが、鉄製品は 1/2、瓦は 1/5 で掲載した。
6. 遺構土層堆積の説明に記載した色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局 (財) 日本色彩研究所監修『新版標準土色帖』を参照にした。

目次

序文

例言 凡例

第1章	調査に至る経緯と過程	1
第1節	調査に至る経緯	1
第2節	調査の経過	1
第2章	遺跡の立地と環境	2
第1節	遺跡の地理的環境	2
第2節	遺跡の歴史的環境	2
第3章	調査の方法	5
第1節	遺跡の調査・記録方法	5
第4章	遺構と遺物	5
第1節	基本土層	5
第2節	中世の遺構（溝跡／土坑／柱穴／性格不明遺構）	6
第3節	古代の遺構（竪穴住居／土坑／柱穴）	14
第4節	小結	14
第5節	SX7出土三脚土器について	32

遺物観察表

写真図版

抄録 奥付

插图目次

第1图	遺跡位置图	1
第2图	周辺遺跡分布图	3
第3图	基本土層图	5
第4图	中世遺構全体图	7
第5图	SD1・SD2・SD3・SK7 遺構图	8
第6图	SK1~4・12・13 遺構图	9
第7图	SK5~11・SK14~16・20 遺構图	10
第8图	SK17~19・21・22 遺構图	11
第9图	P1~10 遺構图	11
第10图	P11~15・17・18 遺構图	12
第11图	SX1~3 遺構图	12
第12图	SX4~6 遺構图	13
第13图	古代遺構全体图	16
第14图	SI1~3・6~8 遺構图	17
第15图	SI8~10 遺構图	18
第16图	SK33~37 遺構图	19
第17图	SK38~42 遺構图	20
第18图	P19~31 遺構图	20
第19图	P32~48 遺構图	21
第20图	出土遺物图(1)	24
第21图	出土遺物图(2)	25
第22图	出土遺物图(3)	26
第23图	出土遺物图(4)	27
第24图	出土遺物图(5)	28
第25图	出土遺物图(6)	29
第26图	出土遺物图(7)	30
第27图	出土遺物图(8)	31
第28图	群馬県内出土三脚土器	33

表目次

第1表	周辺遺跡一覽表	4
第2表	中世土坑一覽表	13
第3表	中世柱穴一覽表	14
第4表	中世性格不明遺構一覽表	14
第5表	古代土坑一覽表	22
第6表	古代柱穴一覽表	22
第7表	県内出土三脚土器一覽表	32
第8表	出土遺物觀察表	34

第1章 調査に至る経緯と過程

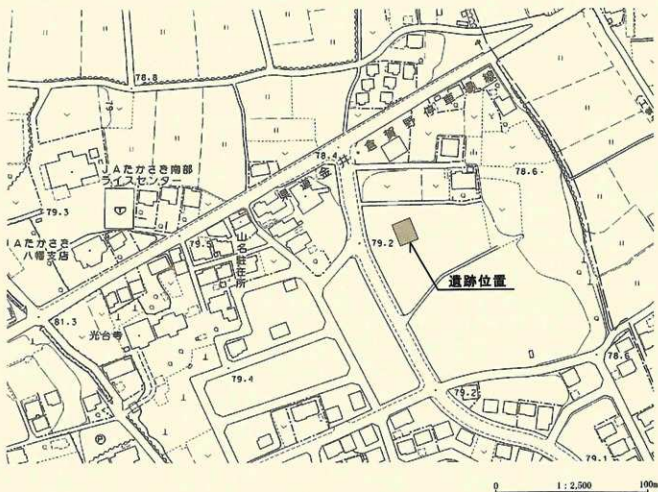
第1節 調査に至る経緯

平成27年4月、高崎市消防局総務課より高崎市山名町における消防分署の建設について事業が計画された。事業予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地(山名町50-8遺跡)であることから、消防局より文化財保護課に試掘調査の依頼があった。これを受けて文化財保護課は、平成27年6月3日に遺跡の有無を確認するための試掘調査を実施した。調査では平安時代と思われる複数の遺構を検出し、古代の集落が広く分布している様相を確認した。この結果を受けて、消防局と文化財保護課の間で工事と文化財の遺跡保護の協議が行われたが、工事計画の変更は困難との回答で、本調査の計画が行われた。その後、文化財保護法第94条に基づく通知が提出され、記録保存のための本調査が実施されるに至った。

第2節 調査の経過

以下、調査記録日誌より抜粋した。

- | | | | |
|--------|-----------------|--------|-------------------|
| 11月16日 | 調査開始。重機による表土掘削。 | 12月28日 | 平安時代の住居跡、土坑等を検出。 |
| 11月27日 | 中世溝、土坑等を検出。 | 1月27日 | 古代遺構面全体写真。遺構測量。 |
| 12月22日 | 中世遺構面全体写真。 | 1月29日 | プレハブ等撤去。 |
| 12月25日 | 古代遺構面まで重機による掘削。 | 2月2日 | 重機による埋め戻し完了。調査終了。 |



第1図 遺跡位置図(『高崎市都市計画基本図』1/2,500を使用)

第2章 調査の立地と環境

第1節 遺跡の地理的環境

山名南若宮遺跡は、群馬県高崎市山名町に位置し、市街地の南東部に所在する。上信電鉄山名駅の東方約600mにあり、遺跡地の西方は観音山丘陵(岩野谷丘陵)の東南端にあたる。遺跡の南約500mは、下仁田町八風山に源流を発する鑛川と、御荷鉾山系に源流を発する鮎川が合流し、さらに遺跡の東方において烏川と合流している。本遺跡地は、これらの3河川と西に連なる標高200m前後の観音山丘陵の末端部にはさまれ、三角形に画された沖積地上に立地している。周辺の標高は79m前後とされる。

周辺部は本来、畑地帯であったが、団地「山名イースタウン」が造成され、近年急速に宅地化が進む開発地域である。

第2節 遺跡の歴史的環境

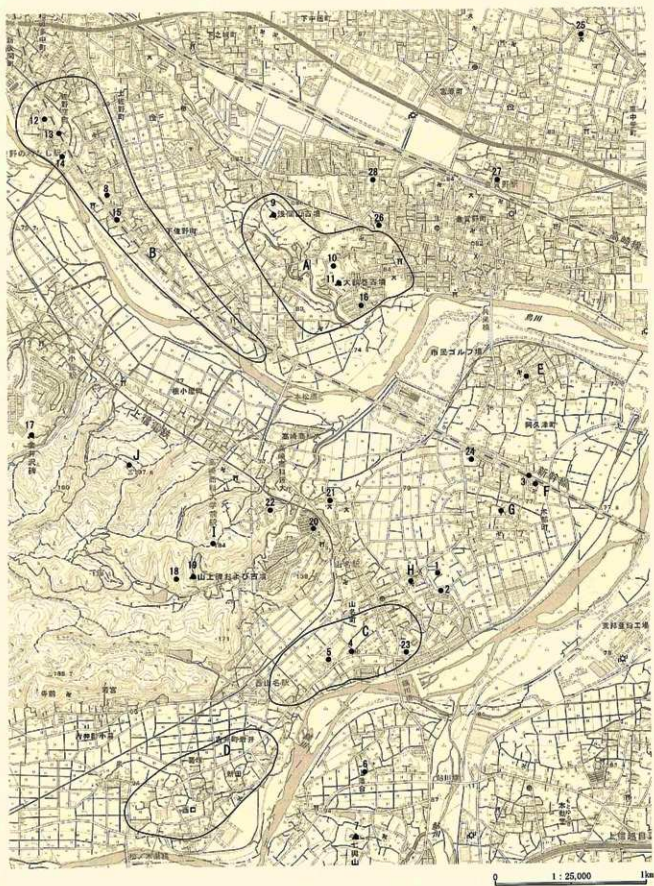
縄文時代 観音山丘陵に所在する山名柳沢遺跡(20)で、前期初頭から中期の住居跡が、八幡山遺跡(22)で前期の土偶等を伴う遺構が確認されている。平地部においては、下佐野Ⅰ・Ⅱ遺跡(15)で中・後期の集落、倉賀野万福寺遺跡(16)で中期の住居跡や土坑、田端遺跡(3)で後期の敷石住居、山名戸矢遺跡(2)で後期の住居跡が確認されている。

弥生時代 遺跡地周辺では、今のところ弥生時代の遺構の発見は類例を見ない。採集資料としては、中期中頃に属する条痕文系土器が山名田中地遺跡(23)から出土している。中期の遺跡のあり方、展開等を考察する上で、貴重な資料である。

古墳時代 遺跡地の北方、烏川左岸に沿って古墳が集中して分布する。倉賀野古墳群を形成する中期の大型前方後円墳である浅間山古墳(9)、大鶴巻古墳(11)、小鶴巻古墳(10)、佐野古墳群を形成する後期の前方後円墳である漆山古墳(8)、大型円墳の藤王塚古墳などである。遺跡地周辺では、西方に市指定史跡山名古墳群(C)が位置する。山名古墳群は後期群集墳で、前方後円墳である山名伊勢塚古墳(4)をはじめ、山名原口Ⅰ遺跡1号墳(5)など中・小型円墳が数十基分布する。山名古墳群の西方にも、後期群集墳の岩井古墳群(D)が位置し、中・小型円墳が広く分布する。また鑛川をはさみ、山名古墳群と対峙する位置には、大型前方後円墳の七輿山古墳(7)、胴張り模様積石室で知られる伊勢塚古墳(6)がある。終末期古墳としては、凝灰岩切石使用の横口式石槨を主体部とする安楽寺古墳(26)がある。

奈良・平安時代 古代の集落は、烏川左岸に位置する船橋遺跡(13)、下佐野Ⅰ・Ⅱ遺跡(15)、鑛川左岸に位置する田端遺跡(3)、山名戸矢遺跡(2)、山名柳沢遺跡(20)などで密に分布している。特徴的な遺物としては、山名戸矢遺跡の平安時代の住居から、「辛枚万呂(からのひらまる)」と刻字された丸瓦が出土している。矢中村東A遺跡では、浅間B軽石下層の平安時代の溝から「物部私印」と刻まれた銅印が出土している。古代官衙寺院遺構としては、田端遺跡で古代瓦が大量に出土しており、周辺に田端廃寺(24)の所在が推定されている。出土した軒丸瓦の中には山王廃寺に類似した複弁蓮華文が含まれ、でせせい遺跡(18)で採集された軒丸瓦と同范関係にあることが知られている。また古代において本遺跡地周辺は、片岡郡から割かれ多胡郡に統合された山部郷に位置するが、郷内には古代の石碑である国指定特別史跡「山上碑(19)」「金井沢碑(17)」が至近に所在する。

中世 観音山丘陵に、山名城(I)、根小屋城(J)、茶臼山城など多くの山城が分布する。遺跡地周辺では、西方に山名館(II)が、東方に木部城(G)や木部館(F)が造られている。烏川の対岸には、大規模な倉賀野城、永泉寺の砦などが位置し、倉賀野万福寺Ⅱ遺跡では小規模な屋敷跡が確認されている。中世遺構としては、山名戸矢遺跡、山名原口Ⅰ遺跡などで溝、堅穴遺構、集石遺構、墓坑などが確認されている。



第2図 周辺遺跡分布図 (国土地理院 1/25,000 を使用)

第1表 周辺遺跡一覧表

NO	遺跡名	概要	備考
1	山名南若宮遺跡	平安～中世の集落	本報告
2	山名戸矢遺跡	縄文～平安時代の集落・古墳～中近世土坑	『山名戸矢遺跡』1993 高崎市教委
3	田端遺跡	縄文～平安時代の集落・中近世土坑	『田端遺跡』1988 群埋文
4	山名伊勢塚古墳	後期前方後円墳	『山名伊勢塚古墳』2008 高崎市教委
5	山名原口1遺跡1号墳	後期円墳	『山名原口1遺跡』1990 高崎市教委
6	伊勢塚古墳	後期円墳	『藤岡市史』1993 資料編原始・古代・中世
7	七奥山古墳	後期前方後円墳	『藤岡市史』1993 資料編原始・古代・中世
8	瀧山古墳	後期前方後円墳	『高崎市史』1999 資料編1 原始古代Ⅰ
9	浅間山古墳	中期前方後円墳	『高崎市史』1999 資料編1 原始古代Ⅰ
10	小鶴巻古墳	中期前方後円墳	『高崎市史』1999 資料編1 原始古代Ⅰ
11	大鶴巻古墳	中期前方後円墳	『高崎市史』1999 資料編1 原始古代Ⅰ
12	上佐野船橋5遺跡	平安時代の集落・土坑・溝	『上佐野船橋5遺跡』2014 高崎市教委
13	船橋遺跡	円墳・小石櫛・古墳～平安時代の集落	『船橋遺跡』1989 群埋文
14	上佐野船橋4遺跡	円墳・奈良～平安時代の集落	『上佐野船橋4遺跡』2015 高崎市教委
15	下佐野遺跡Ⅰ・Ⅱ地区	縄文～平安時代の集落・土坑・方形周溝墓	『下佐野遺跡Ⅰ地区』1989 群埋文
16	倉賀野万福寺遺跡	円墳・縄文～古墳時代の集落・方形周溝墓	『倉賀野万福寺遺跡』1983 高野万福寺遺跡調査会
17	金井沢碑	国指定史跡(726年)	『高崎市史』1999 資料編2 原始古代Ⅱ
18	でえせいじ遺跡	瓦窯跡か	『高崎市史』2003 通史編Ⅰ 原始古代
19	山上碑および古墳	国指定史跡(681年)・円墳	『高崎市史』1999 資料編1 原始古代Ⅰ
20	山名柳沢遺跡	縄文～平安時代の集落・土坑墓	『山名柳沢遺跡』1998 高崎市遺跡調査会
21	山名土合遺跡	後期古墳(円筒埴輪列・家形埴輪)	『高崎市内遺跡埋蔵文化財緊急発掘調査報告書9』1996 高崎市教委
22	八幡山遺跡	縄文時代前期後半の土偶・土器片	『高崎市史』1999 資料編1 原始古代Ⅰ
23	山名田中地遺跡	弥生時代中期土器片	『高崎市史』1999 資料編1 原始古代Ⅰ
24	田端廃寺	推定地、7世紀末頃の廃寺	『田端遺跡』1988 群埋文
25	矢中村東A遺跡	平安時代B下水田・「物部私印」	『矢中村東遺跡』1984 高崎市教委
26	安楽寺古墳	終末期古墳・横口式石塔	『高崎市史』1999 資料編1 原始古代Ⅰ
27	倉賀野上極越遺跡	平安時代の集落・B下水田・中近世の溝	『倉賀野上極越遺跡』2014 高崎市教委
28	倉賀野条里ⅠⅡⅢ遺跡	平安時代の集落・B下水田・溝・土坑	『倉賀野条里遺跡』2001 高崎市教委
A	倉賀野古墳群	中期前方後円墳・後期群集墳	『高崎市史』1999 資料編1 原始古代Ⅰ
B	佐野古墳群	前期古墳～後期前方後円墳・群集墳	『高崎市史』1999 資料編1 原始古代Ⅰ
C	山名古墳群	後期群集墳	『山名古墳群』2008 高崎市教委
D	岩井古墳群	後期群集墳	『岩井新田遺跡』2007 吉井町教委
E	木部北城	戦国時代 築造：木部氏か	『高崎市史』1996 資料編3 中世Ⅰ
F	木部氏館	15世紀 築造：木部氏	『高崎市史』1996 資料編3 中世Ⅰ
G	木部城	16世紀 築造：木部氏	『高崎市史』1996 資料編3 中世Ⅰ
H	山名館	12世紀 築造：山名氏か	『高崎市史』1996 資料編3 中世Ⅰ
I	山名城	14世紀 16世紀改築 築造：山名氏か	『高崎市史』1996 資料編3 中世Ⅰ
J	根小屋城	16世紀 築造：武田氏	『高崎市史』1996 資料編3 中世Ⅰ

第3章 調査の方法

第1節 遺跡の調査・記録方法

調査を開始するにあたり、測量基準杭を横田調査設計部に委託して行った。地積測量時の既知点を元に、調査区の北と南へ2点移設した（北 X = 31033.0・Y = -70785.0・H = 79.187 m、南 X = 31060.0・Y = -70785.0）。

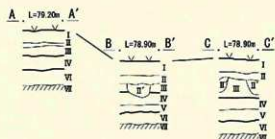
発掘調査は、遺構確認面まで重機による表土除去を行った。遺構の掘り下げについては、人力による掘削作業を行った。その後、古代の遺構確認面を確認したため、再度重機を用いて検出作業を行った。遺構平面実測図は、トータルステーション、オートレベルを使用して、各遺構を1/10・1/20を基本として作成した。全体図については、1/40 測量を測研欄に委託して行った。遺構断面実測図は1/20を基本として作成し、土層堆積の観察にあたった。

写真撮影は、モノクロ 35 mm・カラーズライド 35 mm・デジタルカメラの3台にて各調査段階の記録を撮った。調査区全体写真については、高所作業車をリースして、中世遺構面・古代遺構面の2回撮影を行った。

第4章 遺構と遺物

第1節 基本土層

本遺跡は鳥川、鑛川、鮎川の3河川が合流する沖積地上にあり、度重なる氾濫により複雑な堆積状況が認められる。調査区の地形は、現況面では平坦であるものの、表土掘削を行うと西に微高地状に高く、東に向かってなだらかな低い地形へと変換することが分かる。そのため同一地点でも、西と東で堆積状況に差が見られる。土層観察地点は第4図に示したとおり、西側のA地点、東側のB・C地点の3地点である。IV層は小礫を多く含む黒褐色砂質土で、中世の遺構を検出している。低い地形側のB・C地点では、中世遺構確認面の下層に、周辺河川もしくは西側の丘陵から続く小流路からの流れ込みV層が顕著に堆積している。V層は、角の無い丸みを持った土器細片や摩滅の多い土器片を多く含む包含層である。VI層はしまりの強い褐色地山土で、平安期の遺構を検出している。VI層に掘り込みを有する遺構の覆土は、土器細片を含む非常にしまりのある暗褐色土でV層と非常に近似している。確認面が上層位にある可能性もあるが、上面・断面からも識別は困難である。VI層以下は河原石を多く含む地山層である。河原石は、安山岩類のほか、結晶片岩、石英、緑色岩類、閃緑岩など鑛川起源の石材を多く包含しており、本地点の地形形成時は鑛川の氾濫域であった様子がうかがえる。



基本土層 (A～C地点)

- I 10YR4/2 (灰黄褐色) 現耕作土。As-A 軽石を含む。
- II 7.5YR4/6 (褐色) 現耕作に伴う表洗着層。As-A 軽石を含む。
- III 10YR5/2 (灰黄褐色) As-A 処理層。
- III 10YR4/3 (にぶい黄褐色) 黄褐色粘土や多く含む。細かな上でよくしまる。
- IV 10YR3/3 (暗褐色) As-B 軽石のような砂粒子を多く包含する。粘性なし、よくしまる。遺構確認面。
- V 10YR4/3 (暗褐色) IV層同様粒子の細かな上でよくしまる。IV層より明るい。1～10cm 大の摩滅の多い土器片を多く包含する。
- VI 10YR4/2 (灰黄褐色) 淡褐色シルト・粘土主体層。1～5cm 大の礫を多く含む。粘性なし、よくしまる。遺構確認面。
- VII 10YR4/2 (灰黄褐色) 黄褐色シルト粒子に河原石を多く包含する。地山。

第3図 基本土層図 (S=1/40)

第2節 中世の遺構

溝 (SD)

SD 1 (遺構：第5図/遺物：第22図)

重複：P16、SD3を切る。SX1に切られる。走行：調査区ほぼ中央で確認された。地形の変換点に位置し、西側の微高地と東側の低地の境を南から北へ走行する。確認規模：全体では走長23.45m、幅0.5~1.1m、深さ0.2~0.35mを測る。途中、走行方向を北から東へ変えるが、SD2においても同じ形状である。走行方位：直線箇所ではN-12°-W。遺物：掲載遺物7点。いずれも覆土中からの出土で隣接遺構からの流れ込みと考えられる。また中間位置付近より、まとまった状態で馬歯が出土している。所見：SD1の上層位には、集石遺構SX1が構築されている。SX1からは集石に伴い、内耳鍋・鉢など中世土器類が多く伴出している点で、15世紀以前の溝であることは確認できる。

SD 2 (遺構：第5図/遺物：第22図)

重複：SK21、SD3、SX7を切る。SX1に切られる。走行：調査区ほぼ中央で確認された。SD1と同じく地形の変換点に位置し、西側の微高地と東側の低地の境を南から北へ走行する。確認規模：全体では走長19.4m、幅0.8~1.6m、深さ0.15mを測る。SD1と同じく、途中で走行方向を北から東へ変えるが、なだらかに立ち上がり溝は途切れていた。走行方位：直線箇所ではN-8°-W。遺物：掲載遺物4点。いずれも覆土中からの出土で隣接遺構からの流れ込みと考えられる。所見：SD2の上層位には、集石遺構SX1が構築されている。SX1からは集石に伴い、内耳鍋・鉢など中世土器類が多く伴出している点で、15世紀以前の溝であることは確認できる。

SD 3 (遺構：第5図/遺物：第23図)

重複：SX7を切る。SD1・2に切られる。走行：調査区ほぼ南辺で確認された。検出当初は西へ延びる溝状と考えSDとして番号を付したが、途中で立ち上がりを有し、円形を呈する土坑状である。確認規模：東西幅5.0m、深さ0.4mを測る。遺物：掲載遺物3点。遺物53・54は底面からの出土で、本遺構に伴う遺物と考えられる。所見：SD3の上層位には、集石遺構SX1が構築されている。SX1からは集石に伴い、内耳鍋・鉢など中世土器類が多く伴出している点で、15世紀以前の遺構であることは確認できる。

土坑 (SK)

SK 1~22 (遺構：第6~8図/遺物：第23・24図/第2表)

中世遺構面のほぼ全域に散在し、22基検出した。各土坑の一覧は第2表にまとめた。性格・時期が判断できるものはわずかで、多くは時期など判断できない。

柱穴 (P)

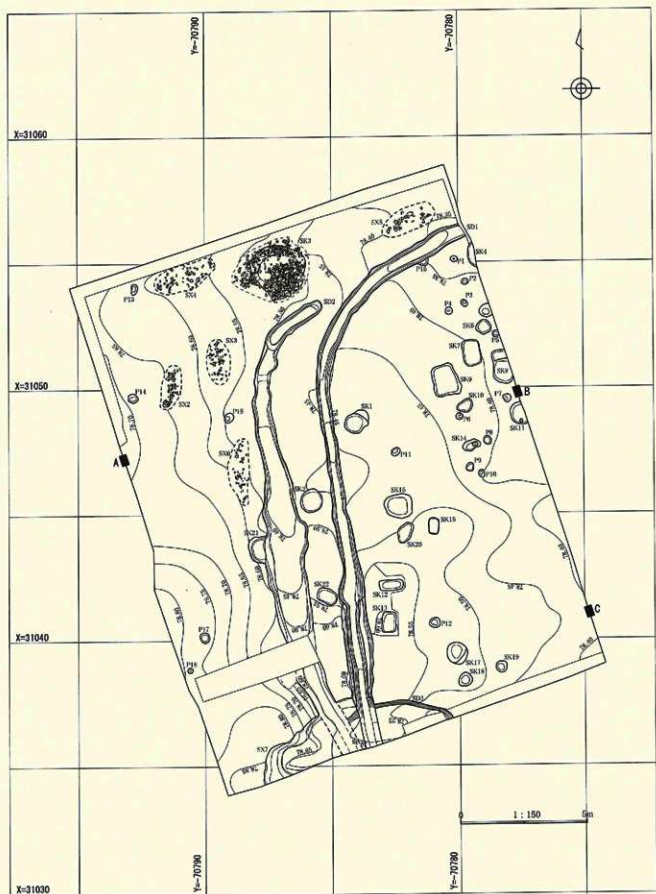
P 1~18 (遺構：第9・10図/第3表)

中世遺構面のほぼ全域に散在し、18基検出した。各柱穴の一覧は第3表にまとめた。多くは伴出遺物がなく、性格・時期など判断できない。

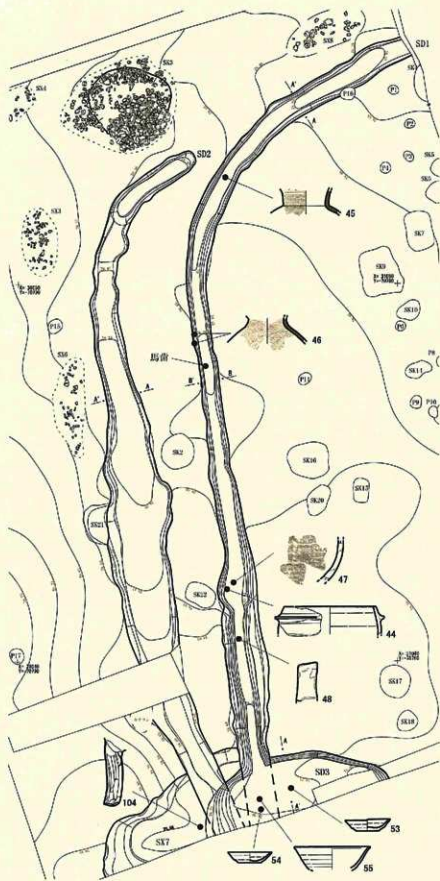
性格不明遺構 (SX)

SX 1~7 (遺構：第11~12図/遺物：第24~26図/第4表)

調査区北寄りに5基、南寄りに2基検出した。SX7以外は集石遺構で、土器片と共に馬歯・骨片が伴出している。SX7はなだらかな浅い掘り込みをもつ形状で、遺構の性格は不明であるが、底面より三脚土器 (No.104) の脚部が出土した。各不明遺構の一覧は第4表にまとめた。



第4図 中世遺構全体図



SD1

A₁-7.0m A'

1 10YR3/3 (暗褐色)
黒色土粒子、黒色土シルト質多く含む。やや軟質。粘質ややあり。2~3cm 大縮所々含む。

SD1

B₁-0.2m B'

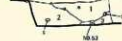
1 10YR3/2 (黒褐色)
2層より黒色土粒子多く含む。
2 10YR3/3 (暗褐色)
A-A' 1層に同じ。

SD2

A₁-0.2m A'

1 10YR3/3 (暗褐色)
暗褐色粒子、シルト質主体。やや軟質。粘質やや強い。3~5cm 大縮多量に含む。

SD3

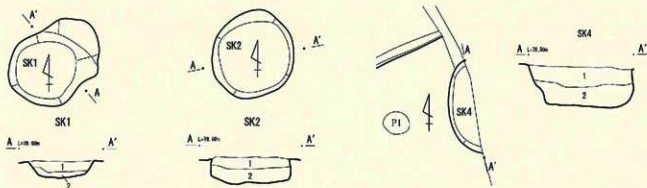
A₁-0.2m A'

1 10YR3/1 (黒褐色)
黒色砂質土。径2~3cmの円礫を含む。しまり弱い。
2 10YR3/2 (黒褐色)
褐色粒子を含む上で、1層より粘質がある。径1~5cm 径の円礫を含む。
3 10YR3/3 (暗褐色)
やや粘性をもつ上で、2層よりしまる。径1~2cmの円礫含む。

0 1:50 (平面図) 2m

0 1:100 (断面図) 4m

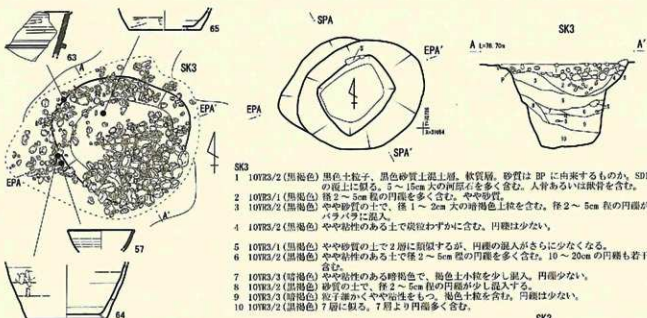
第5図 SD1~3・SK7 遺構図



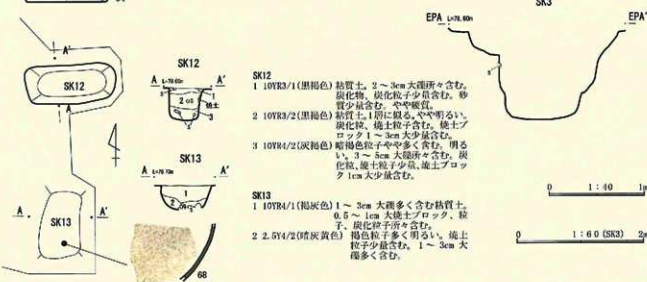
SK1
 1 10YR3/2(黒褐色) 黒色土粒、黒色砂質土層、砂質は川砂山崩か、Pに由来するものか不明。軟質、粘性少ない。
 2 10YR3/3(暗褐色) 1層より赤褐色粒子多く含む。軟質、粘性ややあり。

SK2
 1 10YR3/3(暗褐色) 黒色土粒子主体に、暗褐色粘土〜ブロック多く含む。2〜3cm 大礫多い。粘性やや強い。
 2 10YR3/2(黒褐色) 黒色土粒子、黒色シルト質土主体。軟質。1〜2cm 大礫やや多く含む。

SK4
 1 10YR3/3(暗褐色) 灰白色粘土粒子、褐色土を含む土で比較的しまる。
 2 10YR3/3(暗褐色) 比較的しまる上で、褐色土小粒を混入。地山層と類似する。

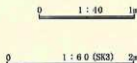


SK3
 1 10YR3/2(黒褐色) 黒色土粒子、黒色砂質土混入層。軟質腐。砂質は DP に由来するものか、SD1 の板の上に似る。5〜15cm 大の河部石を多く含む。入骨あるいは獣骨を含む。
 2 10YR3/1(黒褐色) 径 2〜5cm 程の円礫を多く含む。やや砂質。
 3 10YR3/2(黒褐色) やや砂質の土で、径 1〜2cm 大の暗褐色土粒を含む。径 2〜5cm 程の円礫がバラバラに混入。
 4 10YR3/2(黒褐色) やや粘性のある土で炭粒わずかに含む。円礫は少ない。
 5 10YR3/1(黒褐色) やや砂質の上で 2 層に類似するが、円礫の混入がさらに少なくなる。
 6 10YR3/2(黒褐色) やや粘性のある土で径 2〜5cm 程の円礫を多く含む。10〜20cm の円礫も若干含む。
 7 10YR3/3(暗褐色) やや粘性のある暗褐色で、褐色土小粒を少し混入。円礫少ない。
 8 10YR3/2(黒褐色) 砂質の土で、径 2〜5cm 程の円礫少し混入する。
 9 10YR3/3(暗褐色) 粒子細かくやや粘性をもつ。褐色土粒を含む。円礫は少ない。
 10 10YR3/2(黒褐色) 7層に似る。7層より円礫多く含む。

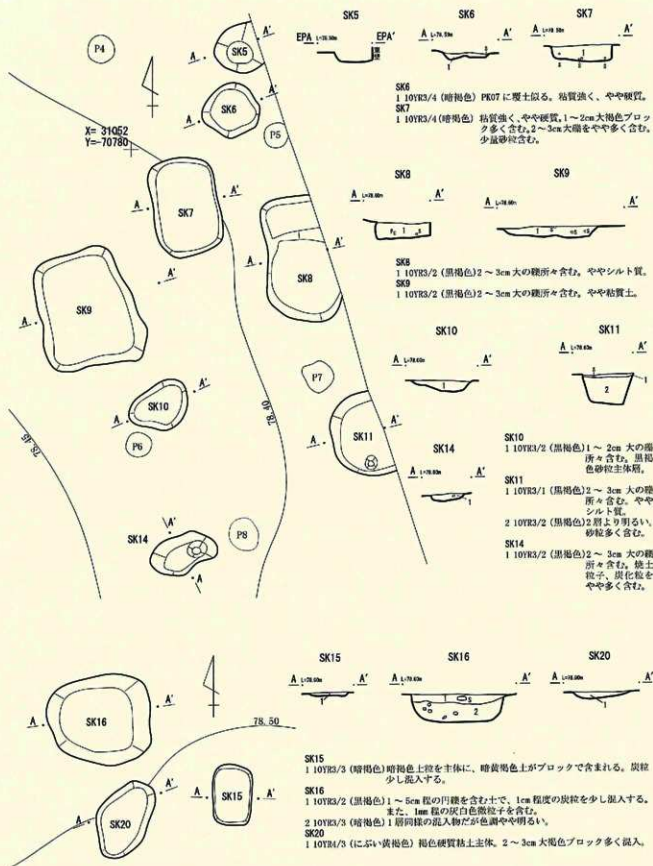


SK12
 1 10YR3/1(黒褐色) 粘質土。2〜3cm 大礫所々含む。炭化物、炭化粒子少量含む。砂質少量含む。やや硬質。
 2 10YR3/2(黒褐色) 粘質土。1層に似る。やや明るい。炭化粒、焼土粒子含む。焼土ブロック 1〜3cm 大少量含む。
 3 10YR4/2(灰褐色) 暗褐色粒子やや多く含む。明るい。3〜5cm 大礫所々含む。炭化粒、焼土粒子少量。焼土ブロック 1cm 大少量含む。

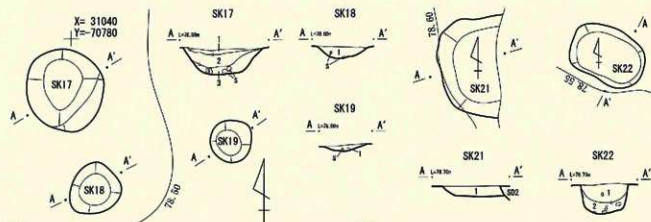
SK13
 1 10YR4/1(褐灰色) 1〜3cm 大礫多く含む粘質土。0.5〜1cm 大焼土ブロック、粒子、炭化粒子を含む。
 2 2.5Y4/2(暗灰黄色) 褐色粒子多く明るい。焼土粒子少量含む。1〜3cm 大礫多く含む。



第6図 SK1〜4・16・13 遺構図



第7図 SK5 ~ 11・SK14 ~ 16・20 遺構図



SK17

- 1 10YR3/2 (黒褐色) 1~2cmの円礫を含む土。1cm程度の灰白色微粒子を含む。
- 2 10YR3/3 (暗褐色) 1~2cmの円礫、暗褐色土粒を含む。やや砂質。
- 3 10YR3/2 (黒褐色) やや砂質の土で、2.3cmの円礫を含む。

SK18

- 1 10YR3/3 (暗褐色) 径2~3cmの円礫を含む。1~2mmの灰色微粒子を混入。

SK19

- 1 10YR3/3 (暗褐色) SK18の1層に似る。

SK21

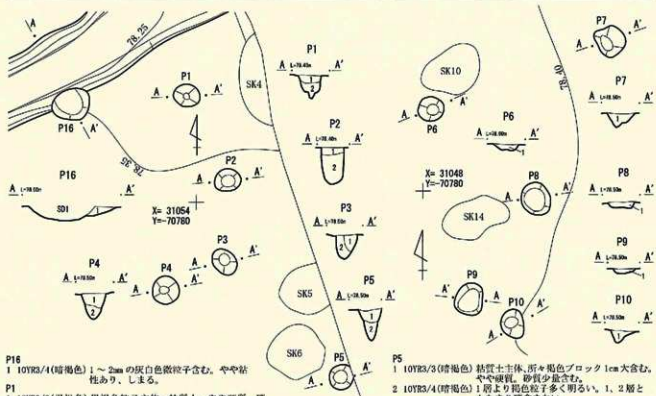
- 1 10YR4/3 (暗褐色) 暗褐色粒状土、シルト質主体。SD02に比べ硬くない。

SK22

- 1 10YR3/3 (暗褐色) やや粘性のある土で、暗褐色土、地粒を多く含む。
- 2 10YR3/2 (黒褐色) 砂質土で3~6mmの円礫を含む。しまり弱い。

0 1:40 1p

第8図 SK17~19・21・22 遺構図



P16

- 1 10YR3/4 (暗褐色) 1~2mmの灰白色微粒子含む。やや粘性あり、しまる。

P1

- 1 10YR3/2 (暗褐色) 黒褐色粒状土主体。粘質土。やや硬質。硬あまり含まない。

P2

- 1 10YR3/3 (暗褐色) 1層より褐色粒状土多く含む。粘質土。硬あまり含まない。

P2

- 1 10YR3/3 (暗褐色) 暗褐色粒状土主体。粘質土。P1-1層に似る。
- 2 10YR3/2 (黒褐色) 1層より黒色粒状土多く含む。粘質土。硬あまり含まない。

P3

- 1 10YR3/2 (黒褐色) 黒褐色粘質土主体。1cm大小礫少し含む。
- 2 10YR3/2 (黒褐色) 1層に、褐色ブロック1~2cm大所々含む。

P4

- 1 10YR4/3 (暗褐色) 暗褐色粘質土主体。1~2cm大褐色粘質土ブロック所々含む。硬くない。
- 2 10YR4/2 (黄褐色) 1層より褐色粒状土多く含む。褐色ブロック少ない。

P5

- 1 10YR3/3 (暗褐色) 粘質土主体。所々褐色ブロック1cm大含む。やや硬質。砂質少量含む。
- 2 10YR3/4 (暗褐色) 1層より褐色粒状土多く明るい。1、2層ともあまり硬くない。

P6

- 1 10YR3/1 (黒褐色) P-10に似る。

P7

- 1 10YR3/1 (黒褐色) P-10に似る。

P8

- 1 2.5Y3/3 (暗オリーブ褐色) 硬質。粘質やや強い。1cm大小礫所々含む。褐色粒状土主体。

P9

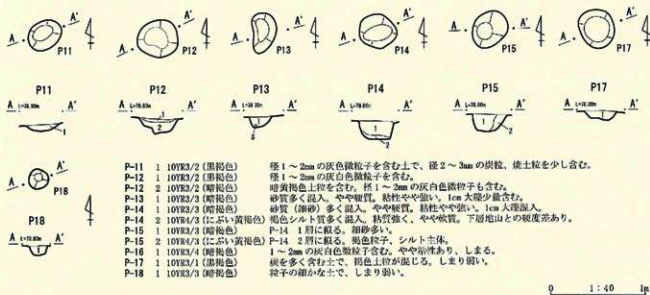
- 1 10YR3/2 (暗褐色) 硬質。粘性強い。褐色ブロック少量含む。

P10

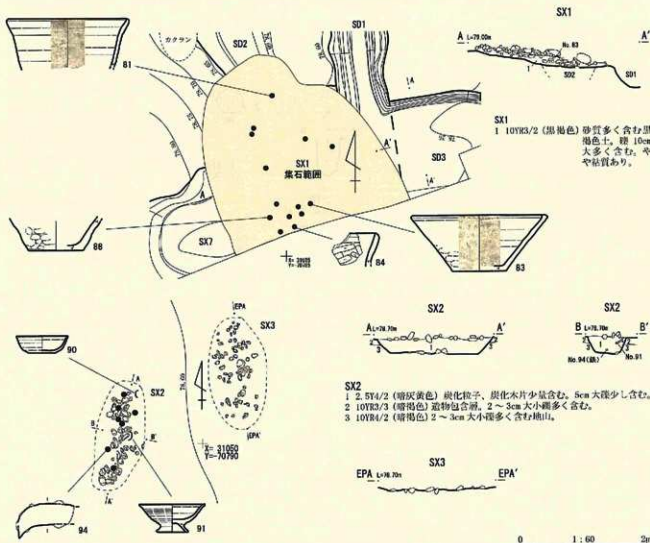
- 1 10YR3/1 (黒褐色) P-7に似る。他遺構より黒色土多く粘質強い。炭化粒少量含む。砂質少量含む。

0 1:40 1p

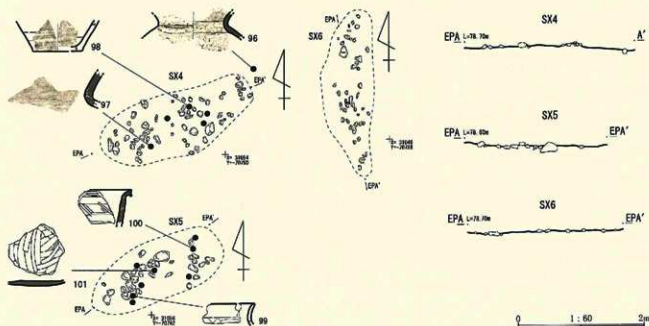
第9図 P1~10・16 遺構図



第10図 P11~15・17・18 遺構図



第11図 SX1~3 遺構図



第12図 SX4～6遺構図

第2表 中世土坑一覧表

番号 SK	形状		確認規模 (cm)			出土遺物	推定時期・切り合い
	平面	断面	長軸	短軸	深さ		
1	不整円形	逆台形	100	80	17	土師器片・須恵器片	—
2	円形	箱形	90	80	29	土師器片	—
3	円形	有段箱形	230	190	132	No.56～66、骨片	—
4	不整円形	箱形	60	30	42	土師器片	—
5	円形	箱形	52	48	10	土師器片・須恵器片	—
6	円形	皿状	60	54	7	土師器片・須恵器片	—
7	長方形	箱形	108	70	17	土師器片・須恵器片	—
8	不整円形	箱形	138	74	17	土師器片・須恵器片	—
9	長方形	皿状	120	100	11	土師器片・須恵器片	—
10	不整円形	皿状	68	48	12	土師器片	—
11	円形	逆台形	90	56	32	土師器片・須恵器片	—
12	楕円形	箱形	96	40	34	No.67	—
13	長方形	箱形	78	54	24	No.68	—
14	不整円形	皿状	72	40	7	須恵器片・骨片	—
15	長方形	皿状	64	40	4	骨片	—
16	円形	箱形	108	94	29	No.69～71	—
17	不整円形	皿状	70	56	7	なし	—
18	円形	逆台形	88	80	15	土師器片	—
19	円形	皿状	46	44	6	土師器片	—
20	不整円形	皿状	70	56	7	なし	—
21	不整円形	逆台形	100	58	10	なし	SD2に切られる
22	楕円形	箱形	80	54	31	土師器片・須恵器片	—

第3表 中世柱穴一覧表

番号	形状		確認規模 (cm)			出土遺物	推定時期・切り合い
	平面	断面	長軸	短軸	深さ		
P	円形	有段箱形	27	26	25	なし	—
1	円形	筒形	28	23	38	なし	—
2	円形	半球形	28	22	24	なし	—
3	円形	筒形	28	28	54	なし	—
4	円形	筒形	24	24	31	なし	—
5	円形	皿状	28	26	6	なし	—
6	円形	皿状	30	28	15	土師器片	—
7	円形	皿状	38	32	6	土師器片・須恵器片	—
8	円形	皿状	34	28	5	土師器片	—
9	円形	皿状	30	24	12	須恵器片	—
10	円形	皿状	36	28	6	なし	—
11	円形	有段箱形	44	40	16	なし	SI9のカマドを切る
12	楕円形	半球形	42	24	11	なし	—
13	円形	箱形	38	36	19	なし	—
14	円形	逆台形	38	36	18	土師器片	—
15	円形	皿状	40	33	18	須恵器片	SD1に切られる
16	円形	皿状	42	36	10	土師器片	—
17	円形	箱形	20	20	10	なし	—

第4表 中世性格不明遺構一覧表

番号	形状		確認規模 (cm)			出土遺物	推定時期・切り合い	
	平面	断面	長軸	短軸	深さ			
SX	楕円形	集石遺構 (掘り込みなし)	285	280	—	No. 79 ~ 89 集石内に土器片多く伴う	SD 1・2・3を切る	
1	楕円形	集石遺構	箱形	182	80	25	No. 90 ~ 95	—
2	楕円形	集石遺構 (掘り込みなし)	180	94	—	なし	—	
3	楕円形	集石遺構 (掘り込みなし)	258	106	—	No. 96 ~ 98、集石内に馬歯を伴う	—	
4	楕円形	集石遺構 (掘り込みなし)	224	92	—	No. 99 ~ 102	—	
5	楕円形	集石遺構 (掘り込みなし)	265	82	—	No. 103	—	
6	楕円形	皿状	(300)	112	20	No. 104	SX 1・SD 1・2・3に切られる	

第3節 古代の遺構

竪穴住居 (SI)

SI 1 (遺構：第14図/遺物：第20図)

重複：SI 2に切られる。SI 2の構築時にカマドは破壊される。形態・規模：東西2.32m、南北3.16m、深さ0.22mを測る。長方形を成す。主軸方向はN-83° -E。柱穴、貯蔵穴は確認出来なかった。カマド：構築面の燃焼部分をSI 2の床面検出時に確認した。床面：硬化面を広く確認した。床面中央付近で、黒灰色の炭の範囲を確認した。掘り方については、床面と地山との差が明瞭でなく、貼り床などは確認できなかった。遺物：掲載遺物1点 (No. 1)。後世の流れ込みの可能性がある。遺構に対する出土遺物量は非常に少なく、廃絶時に食膳具類は全て外へ持ち出している可能性が高い。所見：覆土は人為的埋土と判断する。SI 2構築にあたり早急に埋め戻された可能性がある。時期を判断できる遺物は無いが、SI 2と時期差はあまりものないとする。

SI 2 (遺構：第14図/遺物：第20図)

重複：SI 1を切る。形態・規模：南北2.76m、深さ0.25mを測る。主軸方向は不明であるが、SI 1

と近似すると思われる。柱穴は確認出来なかった。カマド：調査区外に位置する。床面：硬化面を広く確認した。調査区東壁付近で赤褐色の焼土範囲を確認した。SI 1の東壁ラインと直交する位置から、SI 1のカマド燃焼部と考えられる。掘り方については、床面と地山との差が明瞭でなく、貼り床などは確認できなかった。遺物：遺構に対する出土遺物量は非常に少ない。SI 1と同じく、廃絶時に全て外へ持ち出している可能性が高い。掲載遺物は1点(Na.2)。後世の流れ込みの可能性がある。所見：時期を判断できる遺物は少ないが、平安期と推定される。

SI 3 (遺構：第14図/遺物：第20図)

重複：SK28・29・34に切られる。形態・規模：規模は不明である。主軸方向も不明であるが、他の住居と比べ明らかに方向が異なる。柱穴は確認出来なかった。カマド：調査区外に位置する。床面：硬化面を広く確認した。検出したコーナー付近で炭の範囲を確認した。掘り方については、床面と地山との差が明瞭でなく、貼り床などは確認できなかった。遺物：掲載遺物13点(Na.3~15)。床面直上からはNa.14の軒平瓦のほか、Na.6・7が出土している。所見：出土遺物から10世紀代と推定される。

SI 4・5 欠番

SI 6 (遺構：第14図/遺物：第20図)

重複：SX 1・SX 7が上層位にある。形態・規模：東西2.5m、深さ0.25mを測る。主軸方向は不明であるが、柱穴は確認出来なかった。カマド：調査区外に位置する。床面：地山層に似る黄褐色層を検出したが、硬化面が無かったため床面になるか掘り方底面になるかは不明である。遺物：掲載遺物1点(Na.16)。所見：時期を判断できる遺物は少ないが、平安期10世紀代と推定される。

SI 7 (遺構：第14図/遺物：第21図)

重複：P42・43に切られる。SK40を切る。形態・規模：南北2.58m、深さ0.43mを測る。主軸方向は不明であるが、SI 1・2と近似すると思われる。柱穴は確認出来なかった。カマド：調査区外に位置する。床面：硬化面を広く確認した。北辺寄りで炭の範囲を確認した。掘り方については、床面と地山との差が明瞭でなく、貼り床などは確認できなかった。遺物：掲載遺物4点(Na.17~20)。所見：時期を判断できる遺物は少ないが、平安期と推定される。

SI 8 (遺構：第14・15図/遺物：第21図)

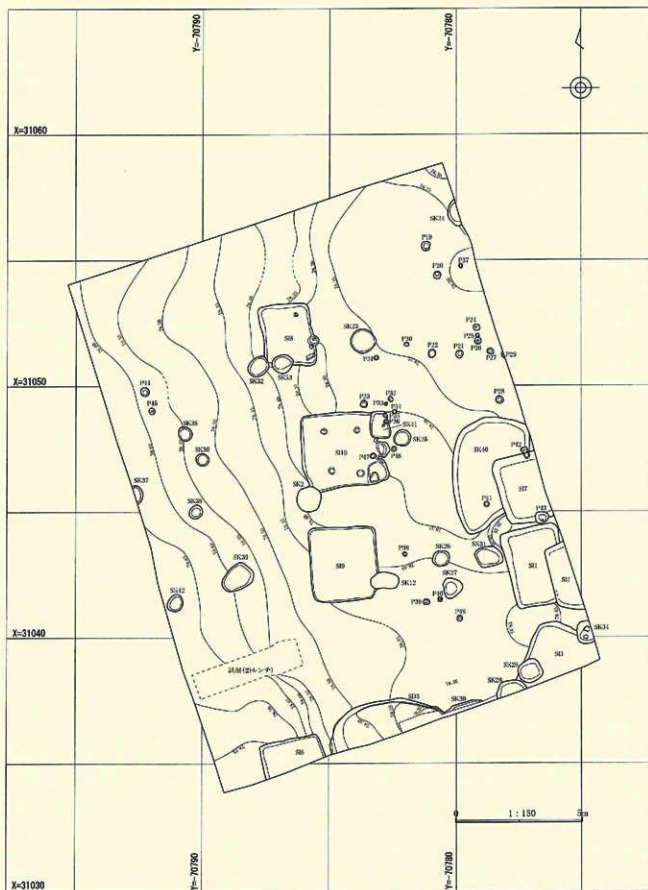
重複：SD 2・SK32・33に切られる。形態・規模：東西2.1m、南北2.5m、深さ0.20mを測る。ほぼ正方形を成す。主軸方向はN-80°-E。柱穴は北東コーナー付近でP1を確認した。カマド：東辺のやや南寄りで燃焼部の範囲を検出した。燃焼部周辺からは土器片のほか、袖石に高架したと思われる長方形を呈した凝灰岩が出土している。床面：地山層に似る黄褐色層を検出したが、硬化面が無かったため床面になるか掘り方底面になるかは不明である。遺物：掲載遺物8点(Na.21~28)。床面直上遺物はなかったが、カマドからNa.26・28が出土している。所見：出土遺物から、10世紀代と推定される。

SI 9 (遺構：第15図/遺物：第21図)

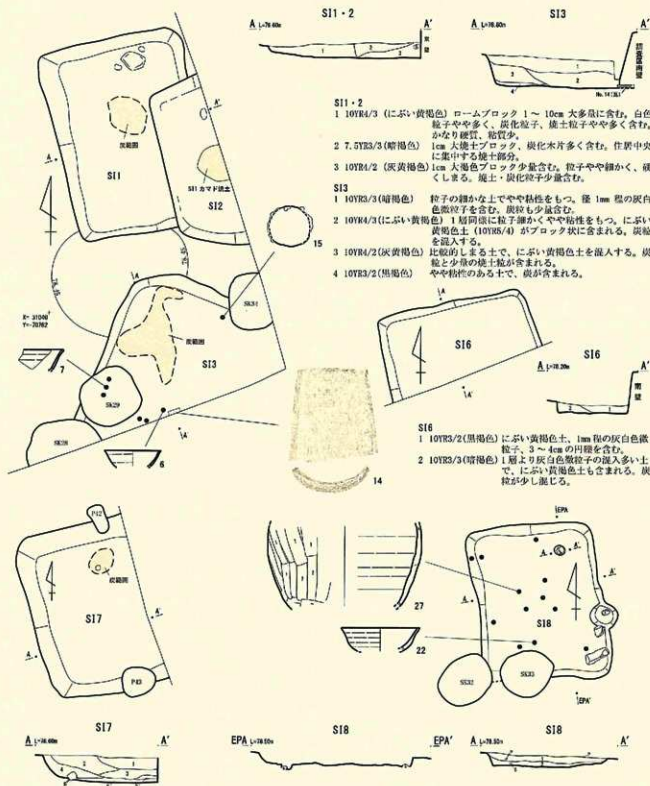
重複：SD 1・SK12・SK22に切られる。形態・規模：東西2.44m、南北2.93m、深さ0.15mを測る。ほぼ正方形を成す。主軸方向はN-88°-E。柱穴は確認出来なかった。カマド：SK12の下部の壁面は、赤褐色に焼けた状態で検出された。おそらくSI 9のカマドを切って構築したものと推定される。床面：地山層に似る黄褐色層を検出したが、硬化面が無かったため床面になるか掘り方底面になるかは不明である。遺物：掲載遺物3点(Na.29~31)。全て覆土からの出土である。所見：出土遺物から、10世紀代と推定される。

SI 10 (遺構：第15図/遺物：第21・22図)

重複：SD 2・SK 2・SK41・P35・36・47に切られる。形態・規模：東西3.4m、南北3.05m、深さ0.16mを測る。ほぼ正方形を成す。主軸方向はN-83°-W。柱穴はP1からP4を確認し、南東コーナー付近で貯蔵穴と思われるP5を確認した。カマド：東辺のほぼ中央で検出した。燃焼部周辺からは土器片がまとまってした。床面：SI 8・9同様、地山層に似る黄褐色層を検出したが、硬化面は無かった。



第13図 古代遺構全体図



S11・2

S13

S11・2

- 1 10YR4/3 (にぶい黄褐色) ロームブロック 1~10cm 大多量に含む。白色粘土やや多く、炭化粒子、焼土粒子や多く含む。かなり硬質。粘質少。
- 2 7.5YR3/3 (暗褐色) 1cm 大塊土ブロック。炭化木片多く含む。作層中央に集中する焼土部分。
- 3 10YR4/2 (灰黄褐色) 1cm 大褐色ブロック少量含む。粒子やや細かく、硬くしまる。焼土・炭化粒子少量含む。

S13

- 1 10YR3/3 (暗褐色) 粒子の細かい上でやや粘性をもつ。径 1mm 程の灰白色微粒子を含む。炭粒も少量含む。
- 2 10YR4/3 (にぶい黄褐色) 1層同様に粒子細かくやや粘性をもつ。にぶい黄褐色土 (10YR5/4) がブロック状に含まれる。炭粒を混入する。
- 3 10YR4/2 (灰黄褐色) 比較的しまる土で、にぶい黄褐色土を混入する。炭粒と少量の焼土粒が含まれる。
- 4 10YR3/2 (黒褐色) やや粘性的ある土で、炭が含まれる。

S16

- 1 10YR3/2 (黒褐色) にぶい黄褐色土。1mm 程の灰白色微粒子。3~4cm の円盤を含む。
- 2 10YR3/3 (暗褐色) 1層より灰白色微粒子の混入多い土で、にぶい黄褐色土も含まれる。炭粒が少し混じる。

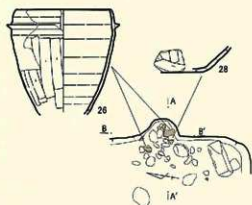
S17

- 1 10YR3/3 (暗褐色) 径 3~4cm の褐色土ブロックを多く含む土でやや粘性あり。
- 2 10YR2/2 (黒褐色) やや硬質の土で、灰白色微粒子・炭粒・径 1cm 程の褐色土小粒を含む。
- 3 10YR3/3 (暗褐色) 1層と同様に褐色土ブロックを多く含むが、やや硬質。
- 4 10YR3/3 (暗褐色) 1層とほぼ同様で褐色土ブロックを多く含む。灰白色微粒子を全体的に混入する。
- 5 10YR5/4 (にぶい黄褐色) 粘性的ある黄褐色土を主体とする。暗褐色土が少し混じる。
- 6 10YR3/3 (暗褐色) 黄褐色ブロックを多く含む土で、灰白色微粒子も含む。比較的しまる。

S18

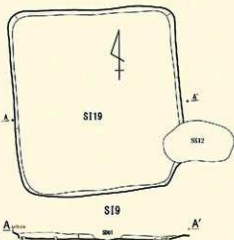
- 1 10YR3/3 (暗褐色) 炭化物、焼土粒や多く含む。暗褐色ブロック (1~2cm) 少量含む。硬質。粘性少ない。
- 2 10YR4/2 (灰黄褐色) 炭化物、焼土粒や多く含む。2~5cm 大小様多量。褐色ブロック。粒子多い。硬質。粘性少ない。

第 14 図 S11 ~ 3・6 ~ 8 遺構図



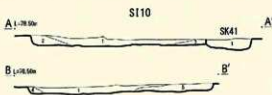
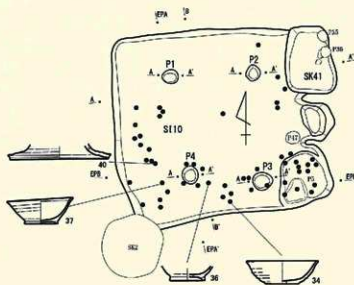
S18 カマド

1 10YR3/3(暗褐色) にぶい黄褐色土を含む土で、焼土粒が少し混じる。



S19

1 10YR3/2(黒褐色) 灰黄色微粒砂子、にぶい黄褐色砂質土の混じる土で、径3~5cmの円礫を多く含む。

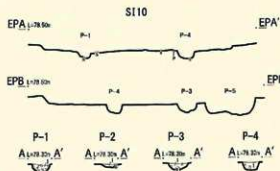


S110

- 10YR3/2(黒褐色) 1mm 程度の灰白色微粒子、にぶい黄褐色土を混入する。径2~3cmの円礫を含む。
- 10YR4/2(灰黄褐色) 比較的しめる土で、2~3mmの灰白色微粒子を含む。径2~3cmの円礫混入。
- 10YR3/4(暗褐色) 2~3mmの灰白色微粒子および黄褐色微粒子を含む。比較的しめる。
- 10YR4/2(灰黄褐色) 2層とはほぼ同じ。
- 10YR3/3(暗褐色) にぶい黄褐色土を含む。灰白色微粒子・炭粒を少量混入する。

SK41

1 10YR3/3(暗褐色) 径1mm程度の灰白色微粒子・にぶい黄褐色土ブロックを含むしまった土。



P-1

1 10YR4/3(にぶい黄褐色) 径2~3mmの灰白色微粒子、にぶい黄褐色微粒子を含む土で、ややザラつく。

P-2

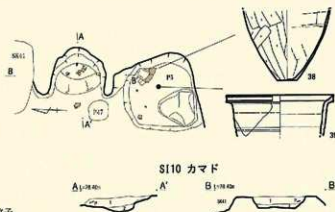
1 10YR4/3(にぶい黄褐色) 径2~3mmの灰白色微粒子を含むが、全体的に粒子の細かい土。

P-3

1 10YR4/3(にぶい黄褐色) P-2と同様だが炭粒・焼土粒を少し含む。

P-4

1 10YR3/3(暗褐色) 径2~3mmの灰白色微粒子を含み、炭粒を少し混入する。



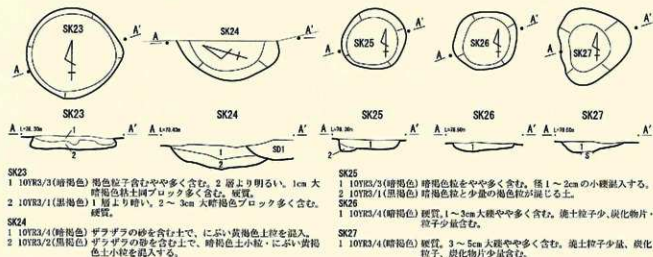
S110 カマド

1 10YR3/3(暗褐色) 径2~3mmの灰白色微粒子を全体的に含み、焼土粒・炭粒を少量混入する。

2 10YR3/4(黒褐色) 1層と同様だが、焼土の混入が多く、やや軟らかい。

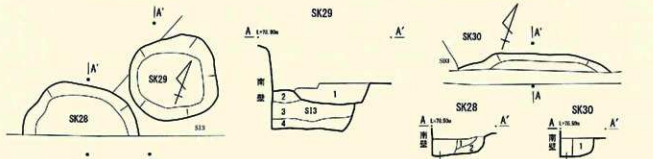


第15図 S18~10遺構図



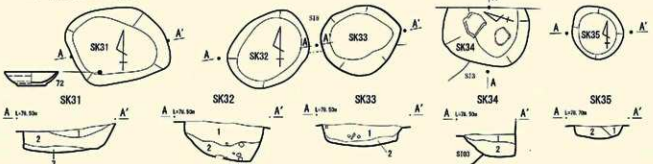
- SK23**
 1 10YR3/3(暗褐色) 褐色粒子含むやや多く含む。2層より明るい。1cm大暗褐色粘土同ブロック多く含む。硬質。
 2 10YR3/1(黒褐色) 1層より暗い。2~3cm大暗褐色ブロック多く含む。硬質。
- SK24**
 1 10YR3/4(暗褐色) ザラザラの砂を含む土で、にぶい黄褐色土粒を混入。
 2 10YR2/2(黒褐色) ザラザラの砂を含む土で、暗褐色土小粒・にぶい黄褐色土小粒を混入する。

- SK25**
 1 10YR3/3(暗褐色) 暗褐色粒をやや多く含む。径1~2cmの小礫混入する。
 2 10YR2/1(暗褐色) 暗褐色粒と少量の褐色粒が混じる土。
- SK26**
 1 10YR3/4(暗褐色) 硬質。1~3cm大礫やや多く含む。焼土粒子・炭化物片・粒子少量含む。
- SK27**
 1 10YR3/4(暗褐色) 硬質。3~5cm大礫やや多く含む。焼土粒子少量、炭化物片少量含む。



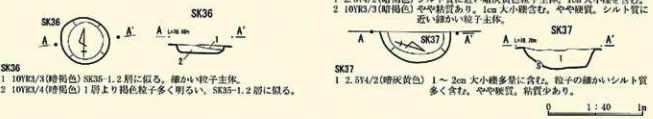
- SK28**
 1 10YR3/2(黒褐色) 黒褐色砂粒やや多く含む。粘質やや強い。褐色ブロック含まない。
 2 10YR3/3(暗褐色) 黒褐色砂粒やや多く含む。粘質やや強い。褐色ブロック1cm大多く含む。1層より明るく、粘質強い。
- SK30**
 1 10YR3/2(黒褐色) SK28に似る。

- SK29**
 1 10YR3/2(黒褐色) 黒褐色砂粒多く含む。やや硬質。粘性ない。白色粒少量含む。2~3cm大灰褐色ブロック多く含む。
 2 10YR3/3(暗褐色) 焼土粒子、炭化物片やや多く含む。硬質。粘性少ない。
 3 10YR3/4(暗褐色) ひたひたする土質。土落片、小礫多く含む。焼土粒・炭化物粒子含む。



- SK31**
 1 10YR3/2(黒褐色) 1cm大小礫含む。やや硬質。
 2 10YR3/3(暗褐色) 1層より褐色粒子多く含む。やや硬質。
 3 10YR4/3(にぶい褐色) ややシルト質の褐色粒子含む。粘質少ない。やや硬質。
- SK32**
 1 10YR3/2(黒褐色) 1~2cm大小礫多量に含む。黒褐色砂粒少量。粘質少ない。
 2 10YR4/2(灰黄褐色) 1層より褐色粒子多く、明るい。1層より粘質強く、小礫少ない。5cm大礫所々含む。

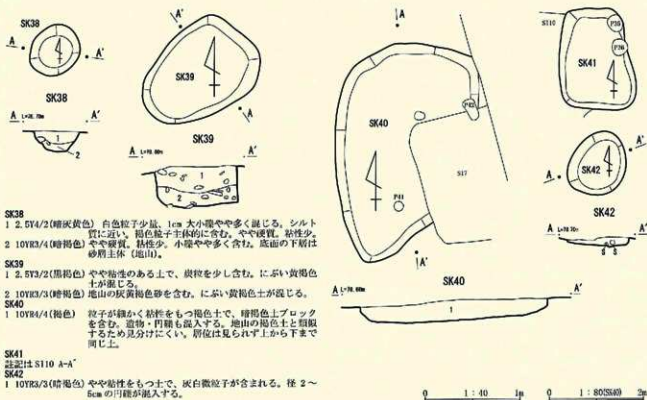
- SK33**
 1 10YR3/2(黒褐色) 1cm大小礫~5cm大礫を多量に含む。黒褐色砂粒少量含む。硬質。
 2 10YR4/2(灰黄褐色) 褐色粒子多く含む明るい。粘質強い。1層より小礫少ない。
- SK34**
 1 10YR3/4(暗褐色) 暗褐色砂粒やや多く含む。やや硬質。粘性やや強い。
 2 10YR4/4(褐色) 0.5~1cm大褐色ブロックやや多く含む。やや硬質。粘性やや強い。



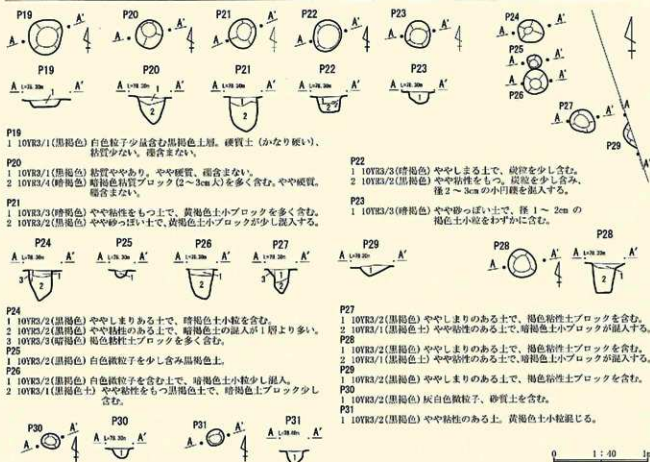
- SK36**
 1 10YR3/3(暗褐色) SK35-1.2層に似る。細かい粒子主体。
 2 10YR3/4(暗褐色) 1層より褐色粒子多く明るい。SK35-1.2層に似る。

- SK35**
 1 2.5Y4/2(暗褐色) シルト質に近い暗灰黄色粒子主体。1cm大小礫を含む。
 2 10YR3/3(暗褐色) やや粘質あり。1cm大小礫含む。やや硬質。シルト質に近い細かい粒子主体。
- SK37**
 1 2.5Y4/2(暗灰黄色) 1~2cm大小礫多量に含む。粒子の細かいシルト質多く含む。やや硬質。粘質少あり。

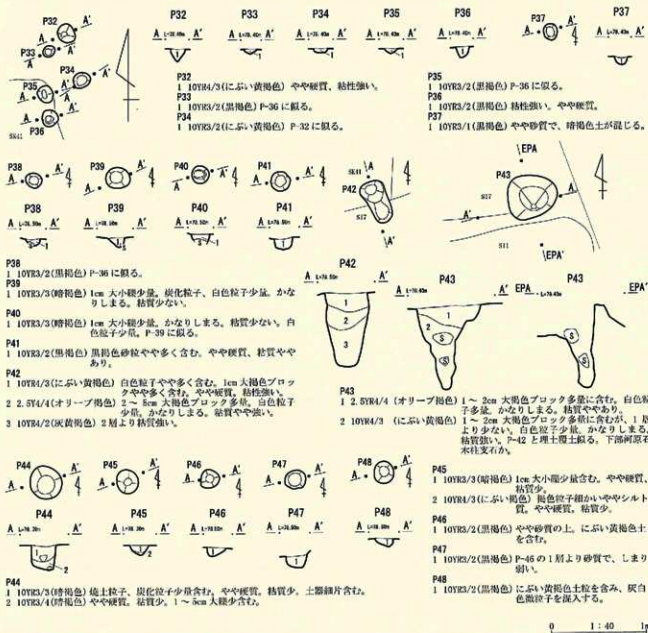
第16図 SK23~37 遺構図



第 17 図 SK38 ~ 42 遺構図



第 18 図 P19 ~ 31 遺構図



第19図 P32～48遺構図

床面になるか掘り方底面になるかは不明である。遺物：掲載遺物10点(No.32~41)。床面直上からはNo.35が出土し、P5からは土師器甕No.38・須恵器甕No.39が出土している。所見：出土遺物から、10世紀代と推定される。

土坑(SK)

SK23~42(遺構：第16・17図/遺物：第24図/第5表)

古代遺構面のほぼ全域に散在し、20基検出した。各土坑の一覧は第5表にまとめた。性格・時期が判断できるものはわずかで、多くは時期など判断できない。SK40は調査時の呼称番号のまま掲載しているが、堅穴住居の可能性が有る。

柱穴 (P)

P19~48 (遺構：第18・19図/第6表)

古代遺構面のほぼ全域に散在し、29基検出した。各柱穴の一覧は第6表にまとめた。多くは伴出遺物がなく、性格・時期など判断できない。

第5表 古代土坑一覧表

番号 SK	形状		確認規模 (cm)			出土遺物	時期・切り合い
	平面	断面	長軸	短軸	深さ		
23	円形	箱形	98	94	13	土師器片・須恵器片	—
24	不整円形	皿状	104	42	25	土師器片	—
25	円形	皿状	70	64	10	土師器片	—
26	円形	皿状	70	64	10	土師器片	—
27	不整円形	皿状	78	76	13	土師器片	—
28	円形	皿状	122	56	15	土師器片	S13を切る
29	円形	皿状	92	86	22	なし	S13を切る
30	不整円形	半球形	158	18	20	なし	—
31	長方形	箱形	100	80	24	No.72	—
32	円形	半球形	86	74	39	土師器片・須恵器片	S18を切る
33	円形	箱形	84	72	23	須恵器片	S18を切る
34	円形	皿状	92	62	23	土師器片	S13を切る
35	円形	皿状	56	54	13	なし	—
36	円形	皿状	50	50	9	なし	—
37	円形	逆台形	72	32	20	なし	—
38	円形	半球形	52	52	21	なし	—
39	楕円形	箱形	128	92	41	No.73	—
40	長方形	皿状	420	300	43	No.74~78	S17・SK11・P41・P42に切られる
41	長方形	箱形	106	78	38	なし	S110を切る
42	円形	皿状	70	60	10	土師器片	—

第6表 古代柱穴一覧表

番号 P	形状		確認規模 (cm)			出土遺物	時期・切り合い
	平面	断面	長軸	短軸	深さ		
19	円形	逆台形	37	36	8	なし	—
20	円形	筒形	28	28	28	なし	—
21	円形	筒形	30	28	35	なし	—
22	円形	箱形	32	32	16	土師器片・須恵器片	—
23	円形	半球形	28	27	12	須恵器片	—
24	円形	筒形	26	24	32	なし	—
25	円形	半球形	14	14	6	なし	—
26	円形	筒形	26	26	31	土師器片	—
27	円形	筒形	26	24	25	なし	—
28	円形	筒形	30	28	31	なし	—
29	不整円形	皿状	26	9	11	なし	—
30	円形	半球形	18	17	10	なし	—
31	円形	半球形	18	16	14	なし	—
32	円形	半球形	22	19	13	なし	—
33	円形	皿状	12	12	5	なし	—
34	円形	皿状	18	15	4	なし	—

35	円形	皿状	18	15	5	なし	SK41を切る
36	円形	半球形	18	14	11	なし	SK42を切る
37	円形	半球形	17	18	11	なし	—
38	円形	半球形	16	16	7	なし	—
39	円形	半球形	24	24	10	なし	—
40	円形	半球形	19	18	7	なし	—
41	円形	皿状	22	20	11	なし	—
42	楕円形	筒形	46	22	38	なし	SI7・SK40を切る
43	円形	筒形	52	46	43	なし	SI7を切る
44	円形	箱形	36	34	25	土師器片	—
45	円形	皿状	25	22	11	なし	—
46	円形	皿状	20	20	9	なし	—
47	円形	皿状	22	20	11	なし	SI10を切る
48	円形	皿状	22	22	8	なし	—

第4節 小結

調査地は鏡川・鮎川・鳥川の3河川が合流する氾濫域という立地条件であるものの、過去に山名戸矢遺跡の調査で古墳から平安時代の集落が多数確認された成果がある。この成果を裏付けるように、山名南若宮遺跡でも、平安時代の堅穴住居跡8軒および古代の土坑・柱穴、中世の土坑・柱穴・集石遺構など数多くの遺構を検出した。

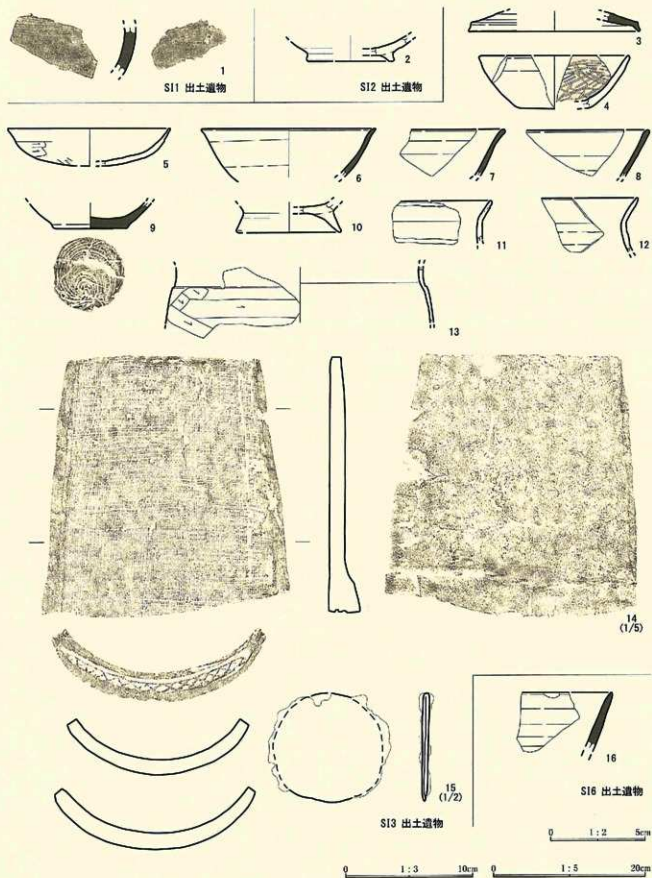
確認された堅穴住居跡の時期は、概ね10世紀前半から中頃に属するもので、山名戸矢遺跡の調査事例と合わせ周辺集落は古代山部郷に属する集落域と想定される。検出した住居跡は、調査区の中でも東寄りでも多く確認しており、集落域は東方に密に分布すると考えられる。これは堆積地層において、レベルの高い西側は地山に礫が多く含まれるため、礫の含有が少ないV・VI層が堆積する西寄りを選定して住居を構築したものと考えられる。カマドについては、SI1・8・9・10において、主軸をN-80°-EからN-88°-Eのほぼ同一方向で確認し、壁辺の中心よりやや右寄りに付設される特徴がある。

出土遺物では、SI1の床面直上から軒平瓦の完形品(No.14)が出土した。隣接する山名戸矢遺跡87号住居からも、「辛枚瓦呂」と刻字された丸瓦の完形品が出土しており、転用瓦を有する住居跡が複数存在する。近隣の推定田端庵寺を含め、瓦葺き建物の所在にも注視する必要がある。また灰軸陶器については、山名戸矢遺跡の成果では確認された平安時代の住居跡3割に灰軸陶器が伴うと報告されているが、本遺跡からはSD1覆土中から破片が1点(No.43)出土したのみで、住居跡からの出土はない。

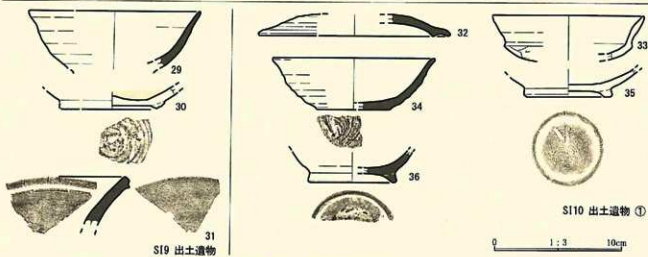
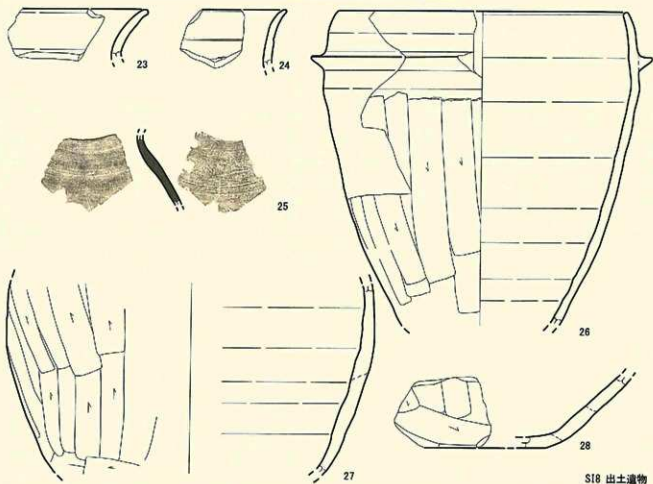
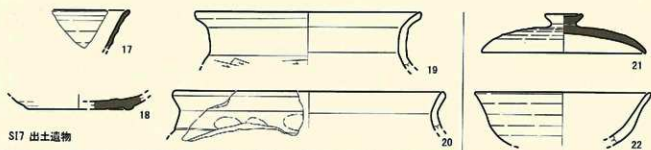
最後に出土土器の胎土についてであるが、肉眼観察のほか60倍率の拡大鏡で個々に観察を行った。実測図を掲載した古代の土器74点(9世紀から10世紀代)のうち約7割(51点)は、角礫状の白色～透明に近い鉱物粒(石英・長石など)や、雲母などの黒色鉱物粒を多く含有する藤岡・吉井窯跡群のものと考えられる製品であった。残り約3割(23点)は、角礫の混入が少なく均一緻密な胎土で、やや丸みのある白色鉱物粒・黒色鉱物粒のほか軟質灰白色粒・軟質赤褐色粒・黒色小斑点などが見られる製品で、藤岡・吉井窯跡群とは特徴が異なるグループである。本遺跡の位置から、背後の丘陵に連なる乗附観音山窯跡群(ヌカリ沢窯跡・乗附窯跡など)の製品の可能性が高く考えられる。器種別では、須恵器環・坏蓋・碗・壺・壺・長頸壺・鐔付き甔など多器種に乘附観音山窯跡群と考えられる製品が見られる。煮沸具の主たる須恵器羽釜については、掲載した8点全てに藤岡・吉井窯跡産の特徴が観察された。本遺跡の傾向としては、藤岡・吉井窯跡群の製品を主としつつ、観音山乗附窯跡群の製品も多器種を使用している様相がうかがえる。小調査の一遺跡での検討ではあるが、今後もこのような検討を時期別、器種別に詳細に重ねることで、古代山部郷の土器様相を解明できればと思う。

<参考文献>『山名戸矢遺跡』1993 高崎市遺跡調査会・高崎市教育委員会

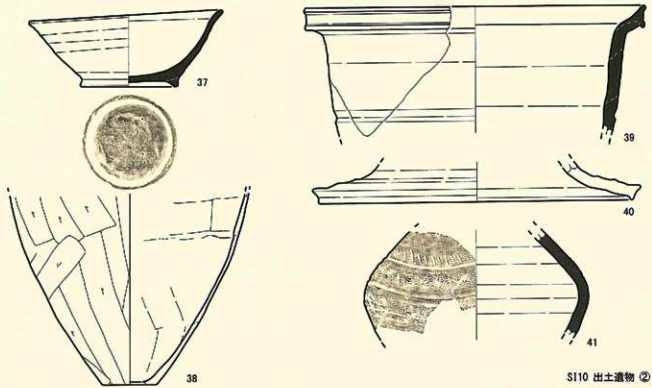
『ヌカリ沢A窯址発掘調査報告書』1995 吉井町教育委員会



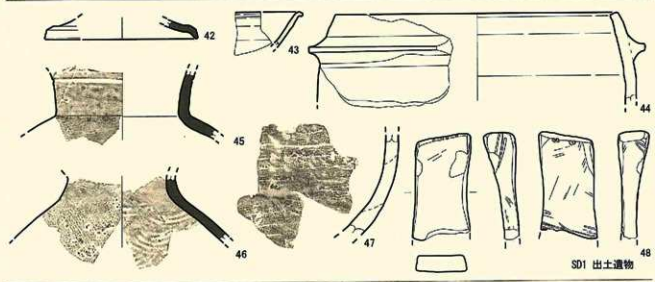
第 20 图 出土遺物图 (1)



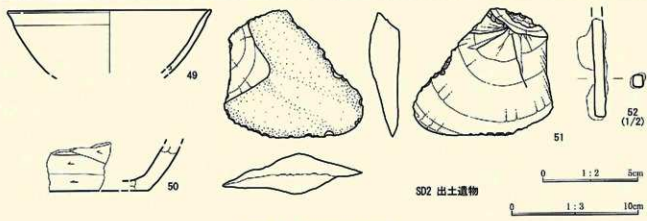
第21圖 出土遺物圖(2)



S110 出土遺物 ②

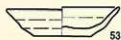


S01 出土遺物



S02 出土遺物

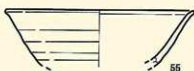
第22圖 出土遺物圖(3)



53

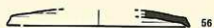


54



55

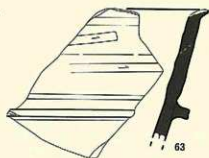
SK3 出土遺物



56



57



63



59



58



60



64



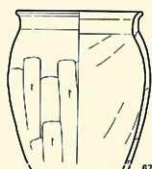
61



65

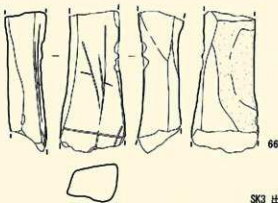


62



67

SK12 出土遺物

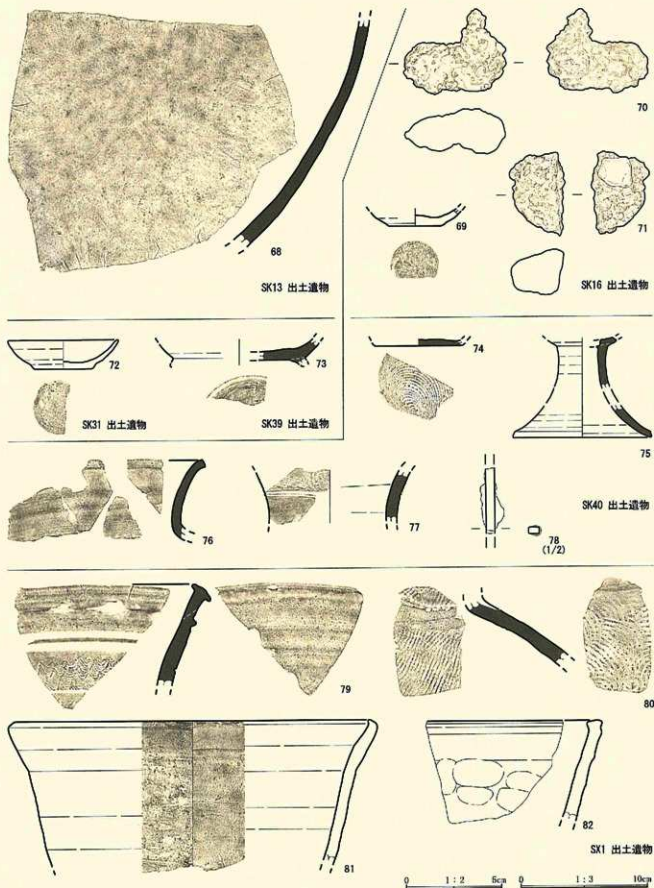


66

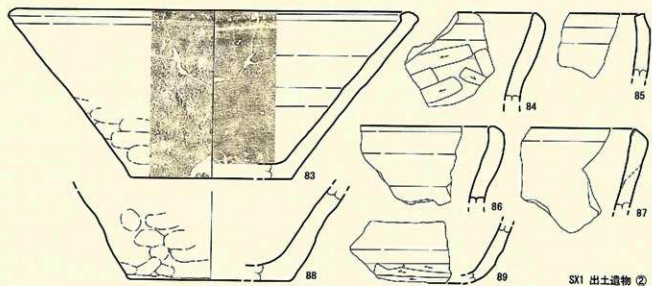
SK3 出土遺物

0 1:3 10cm

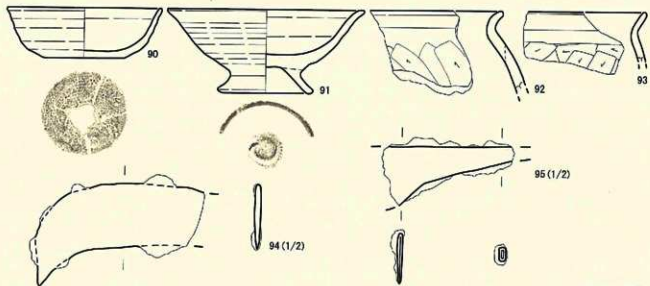
第 23 图 出土遺物图 (4)



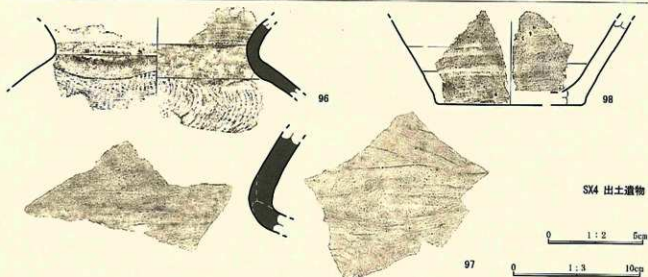
第 24 图 出土遺物图 (5)



SX1 出土遺物 ②

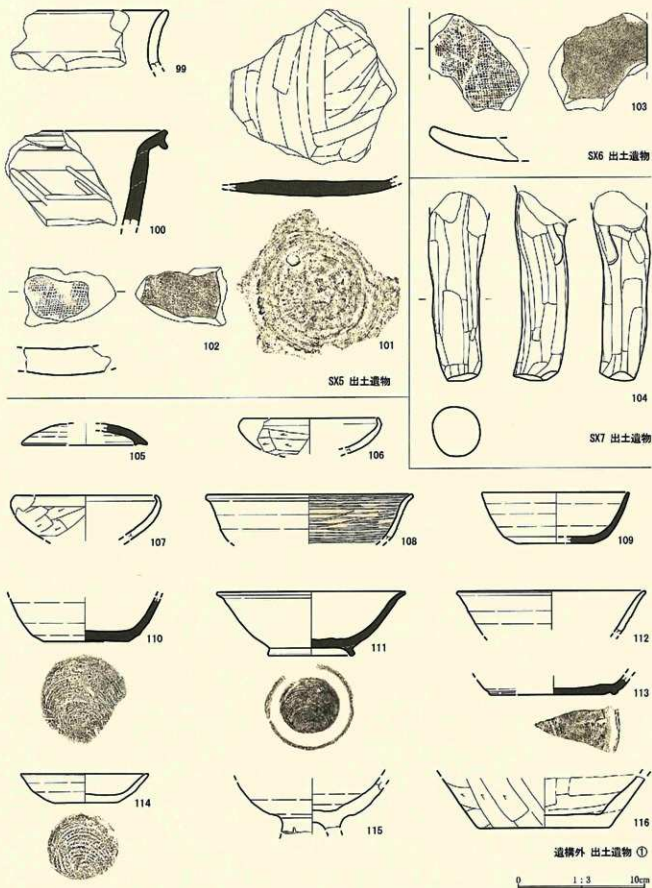


SX2 出土遺物

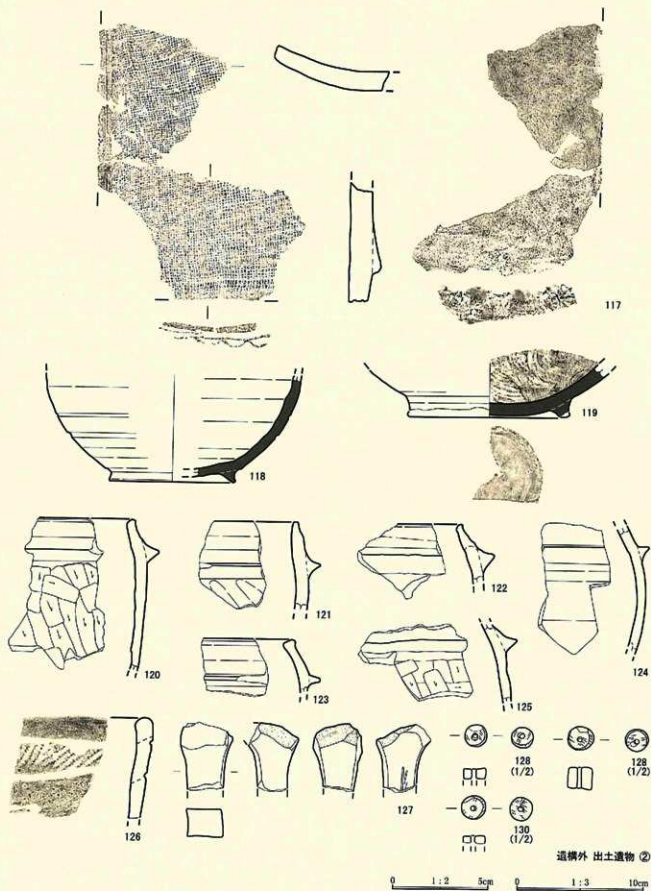


SX4 出土遺物

第 25 圖 出土遺物圖 (6)



第 26 圖 出土遺物圖 (7)



第 27 圖 出土遺物圖 (B)

第5節 SX7 出土三脚土器について

SX7より、三脚土器の脚部片1点が出土した。脚部のみ出土であり、胴部は確認されていない。

三脚土器は、群馬県内での出土例は非常に少ない。胴部形態が判別できるものでは、甕・鍋型がある。高崎市熊野堂遺跡では脚部を除く胴部が出土している。これは住居の竈から出土しており、脚部が欠損した後に土鍋として使用していた可能性が指摘されている。富岡市中沢平賀界戸遺跡では、脚部の一部と胴部が出土している。こちらも住居の竈から出土しており、土器表面に二次被熱の痕跡が確認されている。本遺跡から出土した脚部片については、同様の用途で使用されていたならば二次被熱の痕跡が見られるはずだが、その痕跡が認められないことから、煮炊き具として使用されていた可能性は低い。藤岡市株木B遺跡では、脚部の一部と胴部が住居より出土している。こちらは上記の資料とは違い、胴部が甕型をしており年代も8世紀前半とやや古い。

また、三脚土器は調査例が増加した昨今においても出土量は極めて限定されることから、日常の煮炊き具として使用されたものではなく、儀式的な場面で使用された土器の可能性が指摘されている(古川2014)。加えて、県内出土のものは脚部のみ破片資料が多く、胴部形態を判別できない資料が大多数である。本遺跡から出土した脚部片もこれに該当しており、詳細な時期判定や性格の判断は難しいと思われる。しかし、過去の出土例をみると8世紀～10世紀代との年代判定がされており、本遺跡から出土した脚部片についても過去の例と近い年代だと考えられる。なお、過去の資料を含めて分布傾向をみると、竈川流域に属する富岡市・吉井町・藤岡地域に分布の偏りが見られることは興味深い(島田)。

第7表 県内出土三脚土器一覧表

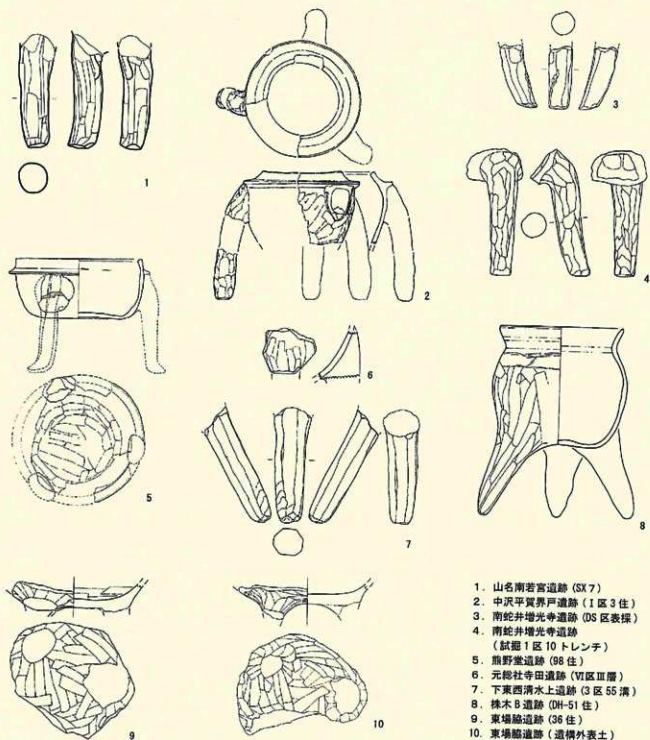
No.	遺跡名	出土遺構	時期	備考	文献
1	山名南若宮遺跡(高崎市山名町)	SX 7	不明	脚部片。	本書
2	中沢平賀界戸遺跡(富岡市)	I区3号住 竈内	10世紀前半	小型の羽釜に3本の脚がつく。	1
3	南蛇井増光寺遺跡(富岡市)	遺構外(DS区表採)	不明	脚部片。	2
4	南蛇井増光寺遺跡(富岡市)	遺構外(鉄掘1区10トレンチ)	不明	脚部片。	3
5	熊野堂遺跡(高崎市井出町)	98号住 竈内	10世紀第1四半期	小型の羽釜に3本の脚がつく。脚部欠損のまま再利用か。	4
6	元総社寺田遺跡(前橋市元総社町)	VI区III層	古代	体部と脚の接合部破片。	5
7	下東西清水上遺跡(前橋市青葉町)	3区55号溝	古代	脚部片。	6
8	株木B遺跡(藤岡市上戸坂町)	DI-51号住	8世紀第1四半期	甕型の胴部に3本の脚がつく。	7
9	東福臨遺跡(高崎市吉井町)	36号住	9世紀後半	体部と脚の接合部破片。	8
10	東福臨遺跡(高崎市吉井町)	遺構外(表上中)	不明	体部と脚の接合部破片。	8

(参考文献)

古川一明 2014『古代東北地方における特殊な形態の煮炊用土器について』『東北歴史博物館研究紀要』15 東北歴史博物館

(文献)

1. 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1996『中沢平賀界戸遺跡』第199集
2. 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1996『南蛇井増光寺遺跡IV』第196集
3. 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1997『南蛇井増光寺遺跡VI』第227集
4. 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1990『熊野堂遺跡(2)』第100集
5. 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1996『元総社寺田遺跡III』第208集
6. 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1998『下東西清水上遺跡』第239集
7. 藤岡市教育委員会 1991『株木B遺跡』
8. 吉井町教育委員会 2003『長根遺跡群VII』



1. 山名南若宮遺跡 (SX 7)
2. 中沢平賀界戸遺跡 (I 区 3 住)
3. 南蛇井増光寺遺跡 (DS 区表探)
4. 南蛇井増光寺遺跡
(試掘 1 区 10 トレンチ)
5. 熊野堂遺跡 (98 住)
6. 元徳社寺田遺跡 (VI 区 III 層)
7. 下東西清水上遺跡 (3 区 55 溝)
8. 株木 B 遺跡 (DH-51 住)
9. 東場船遺跡 (36 住)
10. 東場船遺跡 (遺構外表土)

0 1:5 10cm

第 28 図 群馬県内出土三脚土器

第7表 出土遺物観察表

S11	番号	器種	法量 (cm)	①構成 ②色調 ③胎土 ④残存	成形・整形技法の種類	出土位置・表記
	1	灰志器 甕	口径：— 底径：— 器高：(3.8)	①還元 硬質 ②暗灰色 ③石英、黒色粒、白色粒 ④胴部下半破片	外面 輪轆整形。 内面 輪轆整形。	一括 S101 フタ土
	2	灰志(土師質) 甕	口径：— 底径：(7.0) 器高：(2.1)	①還元気味 やや軟質 ②暗褐色 ③黒色粒、白色粒、細砂粒、(集附塵か) ④底部 1/5	外面 輪轆整形。高台斜付時同辺強で。 内面 輪轆整形。	一括 S102 フタ土
	3	灰志器 蓋	基底径：(11.0) 器高：(1.6)	①還元 硬質 ②黒灰色 ③1mm大砂粒多く含む、石英、黒色粒 ④基底部破片	外面 輪轆整形。 内面 輪轆整形。	B区一括 S103. B フタ土
	4	内里土器 坪	口径：(12.0) 底径：— 器高：(4.2)	①還元 ②暗褐色 ③片岩、石英、雲母、細砂粒 ④口縁～底部破片	外面 輪轆整形。 内面 輪轆整形。口縁部横位段研削、体部斜位段研削。 黒色地埋。	B区一括 S103. B フタ土
	5	土師器 坪	口径：(13.0) 底径：— 器高：(2.0)	①還元 ②暗褐色 ③灰質、石英粒、片岩細粒、チャート ④口縁～底部 1/5	外面 口縁部横撫で、体部削削り。 内面 口縁部横撫で、体部削削り。	B区一括 S103. B フタ土
	6	灰志器 甕	口径：(13.8) 底径：— 器高：(3.9)	①還元 やや軟質 ②灰色 ③石英、白色粒、雲母、片岩、1～3mm大小塵含む ④口縁 1/4	外面 輪轆整形。 内面 輪轆整形。	東面直上 S103. No. 2
	7	灰志器 甕	口径：— 底径：— 器高：(3.7)	①還元 硬質 ②灰色 ③雲母だが所々2mm大塵含む、石英、黒色粒、雲母 ④口縁 1/5	外面 輪轆整形。 内面 輪轆整形。	東面直上 S103. No. 6
	8	灰志器 甕	口径：— 底径：— 器高：(3.7)	①還元 硬質 ②灰色 ③片岩、黒色粒、白色粒、7mm大片岩小塵含む ④口縁破片	外面 輪轆整形。 内面 輪轆整形。	A区一括 S103. A フタ土
	9	灰志器 坪	口径：— 底径：5.8 器高：(2.1)	①還元 やや軟質 ②灰色 ③雲母、石英、片岩 ④底部	外面 輪轆整形。底部右側縁角削り。 内面 輪轆整形。	B区一括 S103. B フタ土
	10	灰志(土師質) 甕	口径：— 底径：(8.4) 器高：(2.5)	①還元気味 やや軟質 ②淡褐色 ③石英、片岩、雲母、砂粒 ④底部 1/3	外面 輪轆整形。 内面 輪轆整形。	南壁サブトレー横 S103. ST 南壁一括
	11	土師器 甕	口・底径：一 器高：(3.4)	①還元 ②暗褐色 ③石英、片岩、雲母 ④口縁破片	外面 口縁部横撫で、輪轆直取。 内面 口縁部横撫で。	B区一括 S103. B フタ土
	12	土師器 甕	口・底径：一 器高：(4.3)	①還元 ②暗褐色 ③石英、片岩、黒色粒 ④口縁破片	外面 口縁部横撫で。 内面 口縁部横撫で。	A区一括 S103. A フタ土
	13	土師器 甕	口・底径：一 器高：(4.5)	①還元 ②暗褐色 ③石英、片岩、雲母 ④底部～肩部破片	外面 肩部右側方向削削り。 内面 肩部横方向直撫で。	B区一括 S103. B フタ土
	14	瓦	軒平瓦 長さ4.200cm ①胎土 ②暗灰色 ③白色粒、黒色粒、軟質灰白色粒。(集附塵か) ④口縁完形	一枚作り 長さ35.00cm 厚22.5(尖部部)～28.5(広部部) 厚さ1.5(尖部部)～4.3(広部部)cm		東面直上 S103. No. 1
	15	鉄製品	鉄球車か 長さ5.7cm 幅0.5cm (楕含む) 厚さ0.4cm 重さ47.32g 表裏面錆付着			
	16	灰志器 甕	口径：— 底径：— 器高：(4.7)	①還元 硬質 ②暗灰色～黒灰色 ③石英、黒色粒、白色粒、やや軟質 ④口縁破片	外面 輪轆整形。 内面 輪轆整形。	B区一括 S106. B フタ土
	17	灰志器 甕	口・底径：一 器高：(3.0)	①還元 硬質 ②暗灰色 ③白色粒、黒色粒。(集附塵か) ④口縁破片	外面 輪轆整形。 内面 輪轆整形。	一括 S107 フタ土
	18	灰志器 坪	口・底径：一 器高：(1.2)	①還元 硬質 ②暗褐色～灰色 ③黒色粒、白色粒。(集附塵か) ④底部破片	外面 削削りし高台、底部削削削削り。 内面 輪轆整形。	一括 S107 フタ土
	19	土師器 甕	口径：(18.0) 底径：— 器高：(4.4)	①還元 ②暗褐色 ③石英、片岩、長石、雲母 ④口縁 1/8	外面 口縁部横撫で、体部右側方向削削り。 内面 口縁部横撫で、体部直撫で。	縦上10cm S107. No. 2
	20	土師器 甕	口径：(21.6) 底径：— 器高：(3.5)	①還元 ②暗褐色 ③石英、片岩、雲母、頁岩 ④口縁 1/8	外面 口縁部横撫で、コ字型直部分指頭正取による 整形。体部右側方向削削り。 内面 口縁部横撫で、体部直撫で。	一括 S107 フタ土
	21	灰志器 蓋	基底径：(13.0) 器高：3.1	①還元 硬質 ②暗灰色 ③石英、雲母、黒色粒、白色粒、 1mm大の砂粒多く含む。 ④1/4	外面 輪轆整形。 内面 輪轆整形。	B区 S108. B フタ土
	22	灰志(土師質) 甕	口径：(10.0) 底径：— 器高：(4.2)	①還元 やや軟質 ②暗褐色 ③片岩、石英、砂粒 ④口縁～下半部 1/4	外面 輪轆整形。輪轆目多く整形。 内面 輪轆整形。	東上5cm S108. No. 10
	23	土師器 甕	口径：— 底径：— 器高：(4.0)	①還元 やや軟質 ②暗褐色 ③1～2mm大砂粒多く含む、黒色粒、 白色粒、片岩、石英 ④口縁破片	外面 口縁部横撫で。 内面 口縁部横撫で。	B区 S108. B フタ土
	24	土師器 甕	口径：— 底径：— 器高：(4.6)	①還元 ②暗褐色 ③1～2mm大砂粒多く含む、黒色粒、 白色粒、片岩、雲母 ④口縁破片	外面 口縁部横撫で。 内面 口縁部横撫で。	B区 S108. B フタ土
	25	灰志器 甕	口・底径：一 器高：(3.5)	①還元 やや軟質 ②灰色 ③褐色粒、やや軟質。(集附塵か) ④口縁破片	外面 輪轆整形。 内面 輪轆整形。	B区 S108. B フタ土

番号	器種	法量 (cm)	①釉色 ②色調 ③胎土 ④残存	成形・整形方法の特徴	出土位置・注記
26	須恵(土師質)羽蓋	口径: 23.0 底径: — 器高: 26.0	①酸化 ②暗褐色 ③石英、白色粒、片岩、長石、赤褐色粒(黒れ粒) ④1/4 底部欠損	外面 輪軸整形、段帯貼付時間差で、 下部下方角位置位置有り。 内面 輪軸整形。	カマド S109-N6.15.17, 18.19
27	須恵(土師質)葉	口径: — 底径: — 器高: (13.0)	①酸化 ②暗褐色 ③1~2mm大砂粒含む、石英、白色粒、片岩 赤褐色粒(黒れ粒) ④底部平	外面 輪軸整形、上方角削り。 内面 輪軸整形。	床土10cm S108-N8
28	須恵(土師質)葉	口径(底径): — 器高: (5.5)	①酸化 ②褐色 ③石英、白色粒、砂粒、粗粒主体 ④底部破片	外面 下方角削り。 内面 欠損。	カマド S108-N6.16.17
S19					
29	須恵器 卍	口径: (13.5) 底径: (4.5) 器高: (4.5)	①酸化 ②褐色 ③片岩、石英、白色粒、砂粒 ④口縁破片	外面 輪軸整形。 内面 輪軸整形。	C区一括 S109.C.フタ土
30	内黒土師 卍	口径: — 底径: (8.0) 器高: (1.9)	①やや酸化気味 ②黒褐色 ③片岩、雲母、長石、白色粒、砂粒 ④底部 1/5	外面 輪軸整形、高台貼付時間差で、 底部貼付不明(磨痕により左右不明)。 内面 横方向削り、藍色処理。	C区一括 S109.C.フタ土
31	須恵器 葉	口径(底径): — 器高: (3.8)	①還元 ②暗灰色 ③白色粒、砂粒、 暗赤褐色粒、(赤附産か) ④口縁破片	外面 輪軸整形、口縁部削り、口唇部に1条の沈着層。 内面 輪軸整形。	A区一括 S109.C.フタ土
S110					
32	須恵器 蓋	基底径: (15.0) 器高: (1.7)	①還元 ②暗灰色 ③白色粒(石英か)、赤褐色、やや微塵、 ④底部部 1/5	外面 輪軸整形。 内面 輪軸整形。	P5- 区 S110.P5.フタ土
33	土師器 卍	口径: 12.0 底径: — 器高: (3.5)	①酸化 ②褐色 ③砂粒、白色粒、黒色粒、赤褐色粒 ④1/4	外面 口縁部削り、体部左方向削り。 内面 口縁部削り、体部削り。	床土15cm S110-N6.12
34	須恵器 卍	口径: (12.8) 底径: (3.0) 器高: (4.1)	①還元 やや軟質 ②暗灰色~灰褐色 ③片岩、石英、チャート、1~2mm大砂粒含む ④口縁一部 1/4	外面 輪軸整形、底縁左方向削り。 内面 輪軸整形。	床土5cm S110-N6.26
35	須恵(土師質) 卍	口径: — 底径: 7.0 器高: (2.2)	①還元 ②暗褐色 ③暗褐色 ④1~2mm大砂粒含む、片岩、石英、黒色粒 ⑤底部	外面 体部輪軸整形、高台貼付時間差で、 底部左方向削り。 内面 体部輪軸整形。	床底直上 S110-N6.22
36	須恵器 卍	口径: — 底径: (7.0) 器高: (2.5)	①還元 やや軟質 ②暗灰色 ③片岩、雲母、石英、白色粒 ④底部 1/2	外面 体部輪軸整形、高台貼付時間差で、 底部削り(磨痕により左右不明)。 内面 体部輪軸整形。	P3- 区 S110.P3.フタ土
37	須恵器 卍	口径: 15.3 底径: 7.5 器高: 5.7	①還元 ②暗褐色 ③片岩、石英、白色粒 ④口縁一部 3/4	外面 体部輪軸整形、高台貼付時間差で、 底部削り(磨痕により削り方向不明)。 内面 体部輪軸整形。	床土5cm S110-N6.12
38	土師器 卍	口径: — 底径: (4.2) 器高: (18.2)	①酸化 ②暗褐色 ③片岩、石英、長石、雲母、赤褐色粒(黒れ粒) チャート ④胴下半~底部 1/2	外面 底部~胴部上方角削り。 内面 底部~胴部削り、磨痕により方向不明。 中位に粘土層付着。	P5内 区 S110-N6.61
39	須恵器 卍	基底径: (27.0) 器高: (10.3)	①還元 ②暗灰色 ③石英、片岩、黒色粒 ④口縁 1/5	外面 口縁~体部輪軸整形、突帯貼付の跡あり。 内面 口縁~体部輪軸整形。	P5内 区 S110-N6.60
40	須恵(土師質) 卍	基底径: (26.0) 器高: (3.1)	①酸化 ②暗褐色 ③石英、片岩、雲母、チャート、黒色粒 ④底部部 1/3	外面 輪軸整形。 内面 輪軸整形。	床土10cm S108-N6.58S, 58Z
41	須恵器 蓋	口径: — 底径: — 器高: (4.6)	①還元 硬質 ②暗灰色~青味がかった灰色 ③白色粒、黒色粒、微塵、(赤附産か) ④底部 1/5	外面 輪軸整形、沈着区画により前部工具による凹凸 文1段、波状文2段を施す。 内面 輪軸整形。	床土10cm S110-5 SD01-3区一括
SD1					
42	須恵器 蓋	基底径: (12.4) 器高: (1.7)	①還元 ②暗灰色 ③石英、砂粒、白色粒 ④破片	外面 輪軸整形。 内面 輪軸整形。	南側 SD01-3区一括
43	灰陶器 卍	口径(底径): — 器高: (3.4)	①還元 ②灰~灰緑色 ③微塵、白色粒 ④口縁破片	外面 輪軸整形、内外面掛け板付。 内面 輪軸整形。	南側 SD01-3区一括
44	須恵(土師質) 卍	口径(底径): — 器高: (7.4)	①酸化 ②暗褐色 ③1~2mm大粒多量、石英、片岩、安山岩、 雲母、長石、チャート ④口径 1/5	外面 輪軸整形、段帯貼付時間差で、 内面 輪軸整形。	南側 下層 SD01-N6.2
45	須恵器 長頸瓶	口径: — 底径: — 器高: (8.4)	①還元 ②暗灰色 ③赤褐色、白色粒、長石、(赤附産か) ④底部 1/2	外面 体部削り方向あり、口縁部1条沈着の上下に 底伏土1段施す。 内面 体部削り。	北側 下層 SD01-N6.7
46	須恵器 卍	口径: — 底径: — 器高: (5.5)	①還元 ②暗灰色 ③白色粒、雲母 ④底部	外面 体部削り具叩き付。 内面 口縁部削り、体部当て具青濁文。	中央 下層 SD01-N6.6.6
47	軟白陶器 葉	口径: — 底径: — 器高: (7.9)	①酸化 ②暗褐色 ③片岩、雲母、長石、砂粒 ④底部破片	外面 体部削り面に残る。縦方向削り。 内面 粘土層剥離に現る。縦方向削り。	南側 下層 SD01-N6.3 SD03
48	石製品	砥石	長さ 8.4cm 幅 4.5cm 厚さ 1.3~2.6cm	重さ 111.32g	石材: 磯沢石 SD01-N6.1
S02					
49	土師器 卍	口径: 16.0 底径: — 器高: 5.0	①酸化 ②暗褐色 ③石英、長石、黒色粒、砂粒 ④口縁 1/4	外面 口縁部削り、体部削りにより不明。 内面 口縁部削り、体部削りにより不明。	北側一括 SD02.フタ土
50	軟白陶器 卍	口径(底径): — 器高: (3.8)	①還元 ②黒褐色 ③石英、黒色粒 ④底部破片	外面 輪軸整形、底部周辺左方向削り、スリ付。 内面 輪軸整形。	南側 上層 SD02-N6.7
51	石製品	スクレイパー	長さ 10.0cm 幅 11.0cm 厚さ 2.4cm	重さ 254.80g	石材: 頁岩 一括
52	石製品	鉄槌か	長さ 6.4cm 幅 6.7cm 厚さ 0.5cm	重さ 62.72g	一括

S03

番号	器種	寸法 (cm)	①構成 ②色調 ③土質 ④保存	成形・整形の特徴	出土位置・表記
53	須恵(土師質) 甌	口径: 8.9 底径: 4.6 器高: 2.3	①酸化 ②褐色 ③片岩、片岩、白色粒 ④光澤	外面 体部輪郭不明、底部右側糸切り。 内面 体部輪郭不明。	底面直上 SK03-No.1 SK01-1-No.12
54	須恵(土師質) 甌	口径: 8.8 底径: 4.6 器高: 2.1	①酸化 ②褐色 ③2-3mm程度多く含む、石英、雲母、粗粒含む ④光澤	外面 体部輪郭不明、底部右側糸切り。 内面 体部輪郭不明。	底面直上 SK03-No.2
55	須恵(土師質) 甌	口径: (15.0) 底径: — 器高: (4.5)	①酸化 ②褐色 ③石英、片岩、雲母 ④光澤 1/4	外面 体部輪郭不明。 内面 体部輪郭不明。	底面 15cm 上 SK03-No.3

SK3

56	須恵器 壺	口径径: (14.4) 器高: (1.2)	①還元 雑質 ②暗灰色 ③中や微細、雲母、片岩、石英粒 ④1/8	外面 輪郭不明。 内面 輪郭不明。	上唇(裏石中) SK03-No.1
57	須恵器 甌	口径: 16.0 底径: — 器高: (4.7)	①還元 中や微細 ②暗灰色 ③片岩、石英、雲母、白色細粒 ④口縁～下半部 1/3	外面 輪郭不明。 内面 輪郭不明、内面凹縁により輪郭不明。	上唇(裏石中) SK03-No.11
58	須恵器 長須壺	口径: — 底径: — 器高: (5.4)	①還元 ②暗灰色～黒灰色 ③雲母、石英粒、白色粒、胎土ややけど ④胴部 1/4	外面 輪郭不明。 内面 輪郭不明。	下唇一括 SK03 中ツウ
59	須恵器 壺	口径: — 底径: — 器高: (7.6)	①還元 雑質 ②暗灰色 ③石英、片岩、雲母、白色粒 ④胴部残片	外面 輪郭不明、口縁部3条状溝の上下に波状文1段付。 内面 体部輪郭不明。	上唇(裏石中) SK03-No.6
60	須恵器 大甌	口径: — 底径: — 器高: (5.2)	①還元 雑質 ②暗灰色 ③白色粒、黒色粒、軟質灰白色粒、(裏附産小) ④胴部残片	外面 輪郭不明、口縁部3条状溝の上下に波状文1段付。 波状文3段以上施文。 内面 輪郭不明。	中唇一括 SK03 中ツウ
61	須恵器 壺	口径: — 底径: — 器高: (8.3)	①還元 雑質 ②暗灰色 ③白色粒、チヤート、黒色粒 ④口縁～胴部残片	外面 輪郭不明、縦方向より目線文施。 青漆状工具による列点文を胴部に施文。 内面 輪郭不明、体部当て具青漆文。	中唇一括 SK03 中ツウ
62	須恵器 壺	口径: — 底径: — 器高: (4.5)	①還元 中や微細 ②暗灰色 ③赤色粒、石英、白色粒、片岩粒 ④胴部残片	外面 輪郭不明、縦方向付着。 内面 輪郭不明、体部当て具青漆文。	中唇一括 SK03 中ツウ
63	須恵器 甌	口径: — 底径: — 器高: (10.5)	①還元 中や微細 ②暗灰色 ③石英、片岩、砂粒 ④口縁残片	外面 輪郭不明、口縁部右横方向付着。 尖形付着時縁面凹縁施。 内面 輪郭不明。	上唇(裏石中) SK03-No.1
64	軟質陶器 甌	口径: — 底径: (19.0) 器高: (13.0)	①還元 中や微細 ②暗灰色 ③片岩、片岩、黒色粒 ④胴部下半部～底面 1/2	外面 輪郭不明、体部凹縁付着。 底部平坦、底面縁方内側付着。 内面 輪郭不明。	上唇(裏石中) SK03-No.14, 15, 16 SK03 下ツウ
65	軟質陶器 甌	口径: — 底径: (17.0) 器高: (4.5)	①還元 雑質 ②暗灰色～暗褐色 ③石英、片岩、黒色粒、白色粒 ④残部	外面 輪郭不明、底面縁方内側付着。自然物(赤褐色)。 内面 輪郭不明。	上唇(裏石中) SK03-No.2
66	石製品	砥石	長さ(11.2cm) 幅5.1cm 厚さ3.3cm 重さ180.94g	石材: 牛込砂岩 正面縁部状に研削面。両面欠部。	下唇一括

SK12

67	土師器 小型甌	口径: 10.0 底径: — 器高: (12.1)	①酸化 ②褐色 ③片岩、石英、雲母 ④口縁～下半部 1/5	外面 口縁部狭溝で、体部上方内側付着。 内面 口縁部狭溝で、胴部凹縁施。	一括 SK12 フタ土
----	---------	---------------------------------	-------------------------------------	---	----------------

SK13

68	須恵器 大甌	口径: — 底径: — 器高: (18.0)	①還元 雑質 ②暗灰色 ③白色粒、黒色粒、(裏附産小) ④胴部下半部残片	外面 輪郭不明。 内面 輪郭不明、体部当て具。	底面直上 SK13-No.1
----	--------	------------------------------	--	----------------------------	-------------------

SK16

69	須恵(土師質) 甌	口径: — 底径: (4.3) 器高: (1.4)	①酸化 ②褐色 ③白色粒、赤褐色粒、(裏附産小) ④残部	外面 輪郭不明、底部右側糸切り。 内面 輪郭不明。	一括 SK16 フタ土
70	鉄製品	鉄滓	長さ 4.3cm 幅 6.3cm 重さ 81.74g	磁力あり	一括
71	鉄製品	鉄滓	長さ 4.2cm 幅 2.6cm 重さ 42.11g	磁力あり	一括

SK17

72	須恵(土師質) 甌	口径: 8.7 底径: 4.5 器高: 2.3	①酸化 ②褐色 ③片岩、石英、雲母、赤褐色粒 ④1/2	外面 輪郭不明、底部右側糸切り。 内面 輪郭不明。	底面 10cm 上 SK21-No.1
----	-----------	-------------------------------	-----------------------------------	------------------------------	------------------------

SK39

73	須恵器 壺小	口径: — 底径: (11.0) 器高: (2.0)	①還元 中や微細 ②暗灰色 ③中や微細、石英、褐色粒 ④残部 1/4	外面 輪郭不明、底部右側糸切り、高台部付着凹縁施。 内面 輪郭不明。	一括 SK39 フタ土
----	--------	----------------------------------	--	---------------------------------------	----------------

SK40

74	須恵器 甌	口径: — 底径: (7.0) 器高: —	①還元 雑質 ②暗灰色 ③白色粒、黒色粒、(裏附産小) ④残部 1/2	外面 輪郭不明、底部右側糸切り。 内面 —	西側一括 SK40 ベルト蓋
75	須恵器 高坪	口径: — 底径: — 器高: (7.9)	①還元 ②暗灰色 ③褐色細粒(炭丸細)、白色細粒、黒色細粒、胎土微塵、(裏附産小) ④胴部 1/2	外面 輪郭不明、脚部2方向縁方長方形の透かし孔。 内面 輪郭不明。	一括 SK40 フタ土
76	須恵器 壺	口径: — 底径: — 器高: (6.0)	①還元 雑質 ②暗灰色～暗褐色 ③白色細粒、褐色細粒、(裏附産小) ④口縁残片	外面 輪郭不明、自然物付着。 内面 輪郭不明、自然物付着。	一括 SK40 フタ土

番号	器種	寸法 (cm)	①焼成 ②着色 ③釉土 ④積存	成形・成形技法の特徴	出土位置・注記
77	須恵器 壺	口径：— 底径：— 器高：(4.0)	①還元 ②褐色 ③白色粒、黒色粒、(黒附塵少) ④還元磁片	外面 輪轆成形、口縁部2本沈没の上に直状文1段施す。 内面 輪轆成形。	東側一筋 S540 フタ土
78	鉄製品	鉄槌	長さ 3.5cm 幅 0.6cm 厚さ 0.2cm 重さ 4.50g 鉄槌基部少		S540-Nb.3
SX1					
79	須恵器 壺	口径：— 底径：— 器高：(8.0)	①還元 ②黄赤～黄灰色 ③石灰、片岩、黒色粒 ④口縁磁片	外面 輪轆成形、口縁部沈没による縁帯1条、直状文2段。 内面 輪轆成形。	集石内一筋 SX1 フタ土
80	須恵器 壺	口径：— 底径：— 器高：(7.0)	①還元 ②灰色 ③石灰、黒色粒 ④還元磁片	外面 輪轆成形、体部平行直紋。 内面 輪轆成形、体部当て具背海渡文。	集石内一筋 SX1 フタ土
81	軟質陶器 内耳瓶	口径：(20.0) 底径：— 器高：(11.5)	①還元 ②黒灰色 ③石灰、片岩、黒色粒 ④口縁 1/5	外面 輪轆成形、スス付着、使用痕あり。 内面 輪轆成形。	集石内上層 SX01-Nb.1
82	軟質陶器 内耳瓶	口径：— 底径：— 器高：(8.1)	①還元 ②暗褐色 ③片岩、石灰、雲母 ④口縁磁片	外面 輪轆成形、体部指頭圧痕による成形。 内面 輪轆成形。	集石下層 SX1 フタ土
83	軟質陶器 鉢	口径：(32.5) 底径：(12.5) 器高：13.3	①還元気味 ②暗褐色 ③2～3mm大砂粒、石灰、白色粒、長石 ④口縁 1/4	外面 口縁部横溝で、輪轆成形、 体部下指頭圧痕による成形。 内面 輪轆成形。	集石内 SX01-Nb.14, 15 SX01 フタ土
84	軟質陶器 内耳瓶	口径：— 底径：— 器高：(7.6)	①還元 ②暗灰色 ③石灰、片岩細粒、黒色粒 ④口縁磁片	外面 輪轆成形、口縁部横溝で。 内面 輪轆成形。	集石内上層 SX01-Nb.11
85	軟質陶器 鉢	口径：— 底径：— 器高：(6.1)	①還元 ②暗灰色～黒灰 ③石灰粒、砂粒、片岩細粒、やや発磁気味 ④口縁磁片	外面 輪轆成形、口縁部横溝で。 内面 輪轆成形。	集石内上層 SX01-Nb.7
86	軟質陶器 内耳瓶	口径：— 底径：— 器高：(6.3)	①還元気味 ②暗褐色 ③やや発磁、黒色粒、白色粒、片岩細粒 ④口縁磁片	外面 輪轆成形、口縁部横溝で。 内面 輪轆成形。	集石下層 SX01 フタ土
87	軟質陶器 内耳瓶	口径：— 底径：— 器高：(8.3)	①還元 ②暗灰色 ③やや発磁、片岩、白色粒、黒色粒 ④口縁磁片	外面 輪轆成形。 内面 輪轆成形。	集石下層 SX01 フタ土
88	軟質陶器 鉢	口径：— 底径：— 器高：(7.6)	①還元気味 ②暗灰色 ③石灰、片岩、白色粒、砂岩 ④口縁磁片	外面 輪轆成形。 内面 輪轆成形、体部下指頭圧痕。	集石内上層 SX01-Nb.7
89	軟質陶器 鉢	口径：— 底径：— 器高：(4.8)	①還元 ②暗灰色～黒灰 ③石灰、砂粒、片岩、やや発磁気味 ④口縁磁片	外面 輪轆成形、底部周辺左縁方向削り。 内面 輪轆成形。	集石内上層 SX01-Nb.8
SX2					
90	須恵(土師)質 鉢	口径：12.3 底径：6.3 器高：4.0	①還元 ②褐色 ③片岩、石灰、黒色粒、赤褐色粒(炭屑類) ④口縁 2/3	外面 輪轆成形、底部内転余切り、磨面により方向不明。 内面 輪轆成形。	上層 SX02-Nb.2, 3 2層 BE-AH・B
91	須恵(土師)質 鉢	口径：(16.7) 底径：(6.8) 器高：(6.6)	①還元 ②暗褐色 ③石灰、片岩、雲母、長石 ④口縁磁片	外面 輪轆成形、口縁部横溝で。 内面 輪轆成形、口縁部横溝で。	上層 SX02-Nb.1
92	土師器	口径：— 底径：— 器高：(6.6)	①還元 ②暗褐色 ③片岩、石灰、雲母、1～2mm大砂粒多い ④口縁磁片	外面 口縁部横溝で、体部縦方向削り。 内面 口縁部横溝で、体部急造で。	一筋 SX02 フタ土
93	土師器	口径：— 底径：— 器高：(4.9)	①還元 ②暗褐色 ③片岩、石灰、雲母、白色粒 ④口縁磁片	外面 口縁部横溝で、体部左斜め方向削り。 内面 口縁部横溝で、体部急造で。	一筋 SX02 フタ土
94	鉄製品	曲刀鎌	長さ (8.7cm) 幅 3.4cm 厚さ 0.3cm 重さ 65.90g 錆だまり多く付着		SX02-Nb.7
95	鉄製品	刀子	長さ (6.9cm) 幅 3.2cm 厚さ 0.3cm 重さ 43.96g 錆だまり多く付着		一筋
SX4					
96	須恵器 壺	口径：— 底径：— 器高：(6.1)	①還元 褐色 ②暗褐色 ③赤褐色粒、白色粒、(炭屑類少) ④還元～還元磁片	外面 頸部縦方向から目施文。 内面 頸部以下当て具背海渡文。	集石内上層 SX04-Nb.8
97	須恵器 壺	口径：— 底径：— 器高：(8.0)	①還元 褐色 ②暗褐色～クリーム色 ③石灰、黒色粒、チャート(吉井産) ④還元～還元 1/5	外面 口縁部横溝で無施文。 体部縦工具具方内向き目。 内面 口縁部横溝で、体部当て具背海渡文。	集石内上層 SX04-Nb.3
98	軟質陶器 鉢	口径：— 底径：(12.0) 器高：(6.6)	①還元 褐色 ②暗灰色 ③石灰、黒色粒、1mm大砂粒多く含む ④底部	外面 輪轆成形、底部周辺指頭圧痕。 内面 輪轆成形。	集石内上層 SX04-Nb.5
SX5					
99	土師器 壺	口径：— 底径：— 器高：(4.7)	①還元 ②褐色 ③石灰、片岩、2～3mm大砂粒含む ④口縁磁片	外面 口縁部横溝で。 内面 口縁部横溝で。	集石内上層 SX05-Nb.4
100	須恵器 壺	口径：— 底径：— 器高：(7.5)	①還元 ②灰色 ③赤褐色、白色粒、褐色粒、(炭屑類少) ④口縁磁片	外面 輪轆成形、体状工具による横で底。 内面 輪轆成形。	集石内上層 SX05-Nb.2
101	須恵器 壺	口径：— 底径：— 器高：—	①還元 ②灰色～黒灰色 ③石灰、片岩、雲母、白色粒 ④底部	外面 底部石部削り。 内面 底部急造で。	集石内上層 SX05-Nb.7
102	瓦	平瓦	長さ (4.7cm) 幅 7.2cm 重さ 79.60g ①還元 ②暗褐色 ③石灰、片岩、チャート ④磁片 縁割あり (吉井産)		集石内上層 SX05 フタ土

番号	部 種	造 量 (cm)	①構成 ②色質 ③軸寸 ④積存	成形・整形技法の特徴	出土位置・表記
103	瓦	平瓦	長さ(7.7cm) 幅(7.6cm) 厚さ105.31g ①還元 ②暗灰色 ③片岩、石英、黒色粒 ④破片 (古井部)		集石内上層 SK06 フタ土
SK7					
104	土師器 甕か	三脚	長さ(18.0cm) 幅4.5cm 高さ279.21g ①還元 ②暗灰色 ③石英、黒色粒、白色粒、褐色砂粒 ④体部欠損 外面焼割り。		底面直上 SK07-№1
遺構群					
105	須恵器 蓋	基底径:(9.0) 蓋径:1.7	①還元 ②灰褐色 ③白色粒、黒色粒、軟質灰白色粒、(葉附埋み) ④破片	外面 輪轆整形。 内面 輪轆整形。	南側東寄 2面 CE
106	土師器 弁	口径:(10.8) 底径:— 蓋高:2.9	①還元 ②暗灰色 ③石英、片岩、雲母、黒色粒 ④1/8	外面 口縁部横溝で、体部右傾方向削り。 内面 口縁部横溝で、体部横溝で。	南側東寄 2面 CE
107	土師器 弁	口径:(11.2) 底径:— 蓋高:(3.5)	①還元 ②暗灰色 ③片岩、石英、黒色粒、チャート ④口縁 1/5	外面 口縁部横溝で、体部右傾方向削り。 内面 口縁部横溝で、体部横溝により調整不明。	中央東寄 2面 Ⅱ 2面・№1.2
108	黒色土師 筒	口径:(16.3) 底径:— 蓋高:(3.6)	①還元 ②暗灰色 ③白色粒、赤褐色粒、黒色粒 ④口縁 1/4	外面 輪轆整形。口縁部横溝で。 内面 輪轆整形。 体部横溝方向の突起、黒色処理。	中央東寄 2面 Ⅱ
109	須恵器 弁	口径:(11.7) 底径:(6.0) 蓋高:(3.1)	①還元 ②灰褐色 ③白色粒、砂粒、やや雑草、(葉附埋み) ④1/4	外面 輪轆整形。底部右方向削り。 内面 輪轆整形。	中央東寄 3面 Ⅱ
110	須恵器 弁	口径:— 底径:(6.6) 蓋高:(3.6)	①還元 ②暗灰色 ③石英、片岩、雲母、白色粒 ④下半部欠損	外面 輪轆整形。底部右側削り。 内面 輪轆整形。体部横溝により調整不明。	北側と中央西寄 2面 AB・BW
111	須恵器 筒	口径:(14.9) 底径:6.8 蓋高:5.1	①還元 ②やや軟質 ③灰褐色 ④白色粒、赤褐色粒、(葉附埋み) ⑤口縁欠損	外面 輪轆整形。体部横溝により不明。 底面高台付特周辺部で、底部左削り削り。 内面 輪轆整形。体部横溝により調整不明。	北側西寄 2面Ⅱ・18・2面AE
112	須恵(土師質) 筒	口径:(14.7) 底径:— 蓋高:(3.6)	①還元 ②暗褐色 ③片岩、赤褐色粒、石英 ④口縁部 1/4	外面 輪轆整形。口縁部横溝で。 内面 輪轆整形。口縁部横溝で。	中央東寄 2面 Ⅱ№3
113	須恵器 弁	口径:— 底径:(10.6) 蓋高:(1.6)	①還元 ②暗灰色 ③赤褐色粒、赤褐色粒(割れ魂)、(葉附埋み) ④破片	外面 輪轆整形。底部削り出し高台。 内面 輪轆整形。	中央西寄表土上 1面 Ⅱ
114	須恵(土師質) 皿	口径:10.0 底径:2.5 蓋高:2.3	①還元 ②褐色 ③石英、雲母、褐色粒 ④1/2	外面 輪轆整形。底部右側削り。 内面 輪轆整形。	表土一括
115	須恵(土師質) 高坪	口径:— 底径:— 蓋高:(4.4)	①還元灰味 ②灰淡褐色 ③赤褐色粒、軟質灰白色粒、黒色粒、(葉附埋み) ④下半部	外周 輪轆整形。脚部三方透しの切り込みの上部部 が欠損。 内面 輪轆整形。	中央東寄 3面 Ⅱ
116	土師器 甕	口径:— 底径:10.4 蓋高:4.1	①還元 ②暗灰色 ③石英、片岩、雲母、長石 ④破片	外面 底部周辺上方削り。スス付着。 内面 底部辺境方向削りで。	南側東寄 2面 CE №5
117	瓦	新平瓦	長さ22.0cm 幅15.0cm 厚さ1.5cm ①還元 ②暗灰色 ③石英、白色粒、片岩少量、 ④破片	黒色粒 ④1/4 (古井部)	北側・中央西寄 2面 AB・BE・Ⅱ
118	須恵器 蓋	口径:— 底径:(9.7) 蓋高:(8.0)	①還元 ②暗灰色 ③白色粒、軟質灰白色粒、黒色粒、(葉附埋み) ④下半部一部 1/4	外面 輪轆整形。体部に比喩2条。 底面高台付特周辺部で。 内面 輪轆整形。	2面 AE
119	須恵器 蓋	口径:— 底径:— 蓋高:(4.6)	①還元 ②暗灰色 ③白色粒、黒色粒、軟質灰白色粒、(葉附埋み) ④破片破片	外面 輪轆整形。高台付特周辺部で。 内面 輪轆整形。当て具着付。	2面 №7
120	須恵(土師質) 刺塗	口径:— 底径:— 蓋高:(12.1)	①還元灰味 ②暗褐色 ③片岩、石英、雲母、赤褐色粒 ④口縁部 1/8	外面 輪轆整形。脚部下方削り削り。 内面 輪轆整形。	中央東寄 2面 Ⅱ №3
121	須恵(土師質) 刺塗	口径:— 底径:— 蓋高:(6.9)	①還元 ②暗灰色 ③石英、片岩、雲母、安山岩、砂粒 ④口縁破片	外面 輪轆整形。体部一部削りで。 内面 輪轆整形。	表土一括
122	須恵(土師質) 刺塗	口径:— 底径:— 蓋高:(6.0)	①還元 ②暗褐色 ③石英、片岩、雲母、黒色粒 ④口縁破片	外面 輪轆整形。 内面 輪轆整形。	北側西寄 2面 AE
123	須恵(土師質) 刺塗	口径:— 底径:— 蓋高:(4.5)	①還元 ②暗褐色 ③片岩、白色粒、雲母、褐色粒(割れ魂) ④口縁破片 (古井部)	外面 輪轆整形。脚部下方削り削り。 内面 輪轆整形。	北側西寄表土上 1面 AE
124	須恵(土師質) 刺塗	口径:— 底径:— 蓋高:(10.6)	①還元 ②褐色 ③片岩、長石、石英、雲母 ④破片破片	外面 輪轆整形。 内面 輪轆整形。	中央東寄 2面 Ⅱ
125	須恵(土師質) 刺塗	口径:— 底径:— 蓋高:(8.0)	①還元 ②暗褐色 ③片岩、チャート、長石、雲母、石英 ④破片破片	外面 輪轆整形。脚部下方削り削り。 内面 輪轆整形。	中央東寄 3面 Ⅱ
126	縄文土器 刺塗	口・底径:— 蓋高:(8.0)	①還元 ②暗褐色 ③石英、片岩、チャート、雲母 ④口縁破片	外面 沈没穴内周縁部で、 内面 内面削り。	南側西寄 3面 CE №1 3面 CE №1
127	石製品 臼玉	長さ(5.4cm) 幅3.8cm 厚さ2.5cm 重さ71.15g	石材:輝石安山岩	内面とも磨面使用痕あり。	2面 Ⅱ一括
128	石製品 臼玉	長さ1.1cm 幅1.1cm 厚さ0.7cm 重さ1.98g	石材:滑石	片面欠損	2面 Ⅱ一括
129	石製品 臼玉	長さ1.2cm 幅1.4cm 厚さ1.2cm 重さ3.36g	石材:滑石	欠損	3面 Ⅱ.5
130	石製品 臼玉	長さ1.2cm 幅1.3cm 厚さ0.5cm 重さ1.90g	石材:滑石	片面欠損	2面 Ⅱ.9